

ご先祖様から私たちへの贈りもの

自然災害伝承碑の事例

(大阪府)

第二版 (令和5年2月27日)

令和5年2月

辻 謙一 現地撮影

- 文章は一部、国土地理院地図等から引用
- 本資料は研究用として整理したものである
- 標題における「○」は国土地理院地形図に掲載済箇所「●」は未掲載箇所
- 自然災害伝承碑に準ずる災害の痕跡も掲載している

- 枚方市 淀川伊加賀 水害
- 高槻市 淀川大塚 水害
- 高槻市 淀川唐崎 水害
- 大阪市 都島区 水防碑 水害
- 大阪市 浪速区 水防碑 水害

- 大阪市 北区（現在） 水防碑 水害
- 大阪市 北区 淀川 水害
- 大阪市 西区 水防碑 水害
- 大阪市 大正区 水防碑 水害
- 大阪市 都島区 櫻宮 水害

- 東大阪市 徳庵 水害
- 寝屋川市 赤井堤 水害
- 大阪市 西淀川区 大塚切れ 水害
- 大阪市 浪速区 安政南海地震 津波
- 大阪市 天王寺区 四天王寺 安政南海地震 津波

- 大阪市 生野区 舍利尊勝寺 安政東南海地震 津波
- 堺市 大浜北町 擁護壘（ようごじ）（安政地震記念碑）
- 大阪市 鶴見区 寝屋川改修記念碑 水害
- 大阪市 鶴見区 正因寺境内 六郷修堤碑 水害
- 大阪市 中央区 大阪城公園内 室戸台風等 教育塔 強風・高潮

- 高槻市 清福寺町 陸軍工兵殉難之碑 水害
- 大阪市 此花区 津波
- 大阪市 此花区 正蓮寺 濃尾地震 震災
- 大阪市 福島区 海老江中公園内 水害
- 大阪市 城東区 榮照寺 室戸台風 風水害

- 大阪市 城東区 今福小学校 室戸台風 風水害
- 大阪市 城東区 聖賢小学校 室戸台風 風水害
- 大阪市 西淀川区 「外島保養院」跡地 室戸台風 風水害
- 大阪市 東成区 深江南 水害
- 大阪市 港区 築港南公園 風水害

- 大阪市 港区 天保山 風水害
- 大阪市 西区 九条東小学校 暴風水害記念誌 室戸台風 風水害
- 枚方市 長安寺 室戸台風 暴風
- 寝屋川市 水本墓地 室戸台風 暴風
- 寝屋川市 打上墓地 室戸台風 暴風

- 茨木市 安威川茨木川合流 水害
- 枚方市 砲弾解体中の引火
- 摂津市 千本つきの歌 淀川 水害
- 枚方市 上庄南之口樋跡
- 堺市 関西大風水害殉職者慰霊碑 室戸台風 風水害

- 堺市 十輪院 室戸台風 風水害
- 堺市 宝珠院 室戸台風 風水害
- 堺市 月蔵寺 室戸台風 風水害
- 堺市 経王寺 室戸台風 風水害
- 堺市 三宝小学校 室戸台風 風水害

- 堺市 三宝公園西 室戸台風 津波
- 大阪市 西区 関西風水害浸水深（現存せず） 室戸台風 風水害

○16 か所 ●31 か所

総計 47 か所

★以下今回 追加現地調査箇所

- 箕面市 箕面川 滝道① 水害
- 箕面市 箕面川 滝道② 水害
- 吹田市 豊津第一小学校 室戸台風 風水害
- 大阪市 港区 池島公園 勝利の女神 水害
- 大阪市 港区 災害モニュメントパーク 水害

- 柏原市及び藤井寺市 大和川付替碑 水害
- 大阪市 中央区 梅檀木橋 水害
- 大阪市 北区 川崎橋 水害
- 大阪市 北区 天満橋 水害

- 大阪市 北区 将基島粗朶水制跡 水害

- 大阪市 北区 天神橋 水害
- 大阪市 北区 渡辺橋・肥後橋 水害
- 大阪市 西区 木津川橋 水害
- 大阪市 西区 安治川橋 水害
- 大阪市 西区 松島橋 水害

- 東大阪市 鴻池新田 朝日社 壅田紀功碑 水害
- 大阪市 城東区 若宮八幡大神宮 由緒之碑 水害
- 四条畷市 四条畷神社 大橋房太郎君紀功碑・治水翁碑 水害
- 大阪市 城東区 野江水流地藏尊 水害
- 大阪府 守口市 守居神社 水害

- 枚方市 小野平右衛門家 水害
- 大阪市 城東区 南中浜子安地藏尊 水害
- 大阪市 城東区 正圓寺 寺子屋中浜菁莪塾 水害
- 吹田市 岸部第一小学校 室戸台風 風水害
- 大阪市 西淀川区 稗島尋常小学校 室戸台風 風水害

- 大阪市 淀川区 圓稱寺 水害
- 大阪市 淀川区 水防碑 水害
- 大阪市 淀川区 十三大橋 水害
- 大阪市 北区 鶴満寺 室戸台風 風水害
- 大阪市 北区 富島神社 水害

- 大阪市 都島区 毛馬排水機場 淀川改修紀功碑 水害
- 大阪市 都島区 毛馬排水機場 淀川左岸水害予防組合設立記念碑 水害
- 大阪市 都島区 毛馬排水機場 毛馬北向地藏 水害
- 大阪市 都島区 旧毛馬基標 地震
- 大阪市 西区 贈正五位河村瑞賢功碑 水害

- 大阪市 住之江区 水防碑 水害
- 大阪市 住吉区 水防碑 水害
- 大阪市 住吉区 堤防安泰祈願の碑 水害
- 大阪市 此花区 水防碑 水害

- 大阪市 福島区 水防碑 水害

- 大阪市 西淀川区 水防碑 水害
- 大阪市 北区 水防碑 水害
- 大阪市 此花区 重修桜堤碑（ちょうしゅうおうていひ） 津波
- 大阪市 東淀川区 水防碑 水害
- 大阪市 生野区 プール学院 室戸台風 風水害

- 大阪市 北区 堀川戎神社 福興戎像 阪神淡路大震災
- 高槻市 如是小学校 室戸台風 風水害
- 高槻市 芥川小学校 室戸台風 風水害
- 池田市 水害記念碑 水害
- 東大阪市 弥刀小学校 室戸台風 風水害

- 東大阪市 友井墓地 室戸台風 風水害
- 東大阪市 彌刀神社 水害
- 大阪市 住吉区 住吉小学校 室戸台風 風水害
- 大阪市 生野区 北鶴橋小学校 室戸台風 風水害
- 守口市 守口小学校 室戸台風 風水害

- 門真市 大和田小学校 室戸台風 風水害
- 大阪市 生野区 生起地蔵尊 室戸台風 風水害
- 大阪市 北区 造幣局 洪水標示石 水害
- 大阪府 豊能町 瀧本訓導の碑 水害
- 豊中市 熊野田小学校 室戸台風 風水害

- 大阪市 平野区 白鷺公園 阪神淡路大震災
- 大阪市 西淀川区 大野百島住吉神社 阪神淡路大震災
- 大阪市 西淀川区 大野百島住吉神社 ジェーン台風 風水害
- 大阪市 西淀川区 田蓑神社 阪神淡路大震災
- 大阪市 福島区 福島天満宮 阪神淡路大震災

- 大阪市 西淀川区 左門殿川 水害
- 寝屋川市 千種庄右衛門彰徳之碑 水害
- 大東市・寝屋川市 寝屋川治水緑地竣工 水害
- 寝屋川市 寝屋川改修記念碑 水害

●大東市 住道地区河川改修完成記念 水害

●大阪市 西淀川区 外島保養院 中野婦長殉職碑 室戸台風 風水害
(殉職碑所在地は、岡山県瀬戸内市 邑久光明園内)

●吹田市 豊津第一小学校 吉岡藤子訓導顕彰碑 室戸台風 風水害
(顕彰碑所在地は、宇部市立厚南小学校内)

○累計 16 か所 ●累計 103 か所(うち今回追加分 72 か所)

総計 119 か所

番外 (自然災害伝承碑ではないものの極めて教訓性が高いもの)

●大阪市 北区 国分寺公園 天六地下鉄工事現場ガス爆発事故 火災

○枚方市 淀川伊加賀 水害



(碑文 要約)

明治18年(1885年)6月18日・7月2日の豪雨により、現在の枚方市伊加賀付近の淀川堤防が約180mにわたって決壊した。

通称伊加賀切れと呼ばれるこの水害は、茨田郡(現守口市・門真市・枚方市・寝屋川市・大東市等の一部)一円を水没させ、濁流は大阪市中にも及んだ。この水害では、2万6千戸以上が流失、約290人が亡くなったとされる。

碑は枚方市登録文化財となっている。(現在地へは2010年に移設)

★淀川水害(明治18年)

○高槻市 淀川大塚 水害



(碑文 要約)

大正6年(1917年)10月1日、台風による大雨で淀川の水位が上昇し、高槻市大塚町の堤防が200mにわたって決壊した。家屋は流され、倒壊し、死傷者は数十人にのぼった。

後世への戒め

「居安必勿忘危(安楽に暮らしていても、絶対に危機のあることを忘れてはならない)」

★淀川水害(その他)

○高槻市 淀川唐崎 水害





(碑文 要約)

明治元年（1868年7月1日）、折からの長雨で、唐崎弥右エ門屋敷堤防が延長309mにわたって決壊。前島や大塚などでも堤防が切れ、被害は165か村、浸水面積5,400haにのぼった。

明治18年水害による修堤碑も併設。

★淀川水害（その他）

●大阪市 都島区 水防碑 水害



(碑文 原文)

都島区は、これまで幾多の水害に見舞われてきたが、中でも明治18年1885年の大洪水による被害は大きく、東成郡27ヶ村が水中に没した。そこで濁水を淀川に戻すため、野田村の現在の網島町の堤防を切り崩し、徐々に放流した。近年こうした大水害はほとんど見られなくなったが、このような平時において、なお、一層人々が水防意識を高め、不断の努力で、災害を防除することを祈願して、この碑を建立する。

昭和55年秋 大阪市

★水防碑 (大阪市)

●大阪市 浪速区 水防碑 水害



(碑文 原文)

浪速区はこれまで台風に伴う高潮により、幾多の水害に見舞われたがなかでも昭和九年(一九三四)の室戸台風、同二十五年(一九五〇)ジェーン台風、同三十六年(一九六一)の第二室戸台風により、多くの人命と財産が失われた。近年こうした大水害はほとんど見られなくなったが、このような平時においても、なお一層人々が水防意識を高め、不断の努力で災害を防除することを念願してこの碑を建立する。

昭和 55 年秋 大阪市

★水防碑 (大阪市)

●大阪市 北区（現在） 水防碑 水害



（碑文 原文）

大淀区はこれまで台風に伴う高潮により幾多の水害に見舞われたが中でも昭和九年（1934年）の室戸 同三六年（1961年）の第二室戸台風より多くの人命と財産が失われた

近年こうした大水害はほとんど見られなくなったがこのような平時においてもなお一層人々が水防意識を高め、不断の努力で災害を防除することを念願してこの碑を建立する

昭和 55 年秋 大阪市

★水防碑（大阪市）

●大阪市 北区 淀川 水害







(碑文 原文)

明治十八年淀川の堤防決壊して大水氾濫ありてより同川改修の議起り其廿九年大土功を開始し同三十二年十三町民家立退を命せられ同卅五年十三橋完成す其川幅元一百間なりしを三百八十五間餘尔改て令られてして同四十二年六月本川改修の竣功式を毛馬閘門に挙らる茲に本家町の親友會諸氏等相謀りシ道標を遣立し燈を設けやり置往來を安全ならしむ予俳得を賦して頌耳代鶴翁云

浪花南水讀齋書 印 印

燈雲乃花野こし遍尔照し多李

★淀川水害（明治 18 年）

○大阪市 西区 水防碑 水害





(碑文 原文)

西区は、これまで台風に伴う高潮により幾多の水害に見舞われたが、なかでも昭和 9 年 (1934 年) の室戸台風同 25 年 (1950 年) のジェーン台風、36 年 (1961 年) の第 2 室戸台風により多くの人命と財産が失われた。近年こうした大水害は、ほとんど見られなくなったが、このような平時においても、なお一層人々が、水防意識を高め不断の努力で災害を防除することを念願してここ長堀川跡にこの碑を建立する。

昭和 53 年 秋 大阪市

★水防碑 (大阪市)

●大阪市 大正区 水防碑 水害





(碑文 原文)

大正区は、これまで台風に伴う高潮により幾多の水害に見舞われたが、なかでも昭和9年(1934年)の室戸台風、同25年(1950年)のジェーン台風などにより、多くの人命と財産が失われた。

近年こうした大水害はほとんど見られなくなったが、このような平時においても、なお一層人々が、水防意識を高め、不断の努力で災害を防除することを念願してこの碑を建立する。

昭和52年 秋 大阪市

★水防碑(大阪市)

●大阪市 都島区櫻宮 水害



(碑文 要約)

明治18年6月枚方市伊加賀で堤防が切れ、北河内全域まで浸水が拡がり、大阪市公邸あたりの堤防を人工的に開いて（俗称：わざときり）、北河内全域の水を大川に戻した。その後、暴風雨が来て、さらに被害が拡大した。同時に大阪府知事の建野郷三の強いリーダーシップが称えられている。

堯の時代には水害が、湯の時代には旱があったように、天は歴代の国家に災いを降り下ろしてきた。故に、舜の時代には垂拱の治という平穏な治世があったが、それでも自然災害を絶無にさせることはできなかった。このため為政者は、水害で溺れた被災者たちを救うことに、心を尽くさなければならなかった。明治十八年乙酉夏六月に、大雨が長く続き、淀川がいきなり暴漲し、茨田郡伊加賀村の堤防が決壊して、摂河諸郡一四五村が水没した。水勢は浩々として、見渡す限り際限なく水面が広がった。住民は逃げまどい、子供や年寄りには叫び声を上げた。ある者は屋根上に乗って水を避け、ある者は木に登って救いを求め、走って逃げる者、泣く者、顛者、蹶者、その悲惨な様は、ことばにすることが

できないほどであった。被災地の多くは大阪府に属した。府知事の建野君は、急を聞いてただちに蹶起していうには、人命は何者よりも重い、一時もおろそかにはできない。ただちに櫻井郡長や土木課員らと会って、堤防を切る相談をした。実に六月十八日のことである。翌日正午、知事は数名の幹部職員を率いて網島に赴き、現場支局を起ち上げて陣頭指揮をとった。すなわち、鎮台将校と協力して、役夫千人余りを動員して野田村の堤防をわざと切り洪水の勢いを殺した。これによって摂河諸郡の人民は息を吹き返し、魚の餌食となることを免れた。未だ嘗て、このような偉業が為されたことはなかった。このようにして、前災が取り除かれたと思ったら、続けざまに後患がやってきた。その月の二十九日、暴風がはげしく吹き、水かさが増加した。まるで万馬が駆け、百雷が轟くようであった。見る間に桜宮堤防が決壊して、勢い余って氾濫した水は一気に市街に流れ込んだ。市街はまたたく間に水に沈み、橋梁は悉く分断され、その惨状は以前を上回った。知事は、水害に罹災した民が、衣食に不自由することを予想して、糧食を用意してこれを救援しようと考えた。すると、市井の人民や外国の商人から、衣服や食糧が続々と届き、さらに財物の寄付もどんどん寄せられた。また、大いに工事を起こして堤防を修理し、これにより貧民を救済した。七月にはじまり、九月に竣工した。被災して困窮した民が飢餓を免れたのも、また、未だ嘗てなかった力によるものである。そもそも茨田・東成二郡が、野田村堤防を切って水害を免れたのは、この百年余りの間で、今を去る八十年前である。ただ、享和・文化の水害は、徳庵堤が水没した後に堤を切ったが、今回は先に徳庵堤が水没する前に堤を切った。これは、人命を守って、水害を免れようとしたもので、その功績効果は歴然で、以前の倍にあたるものである。もしもぐずぐずと躊躇って堤を切っていなかったならば、摂河諸郡が水害を被っただけではなく、それによって波及した被害は計り知れない。この後、淀川の水害に直面したときには、これを鑑として、また戒めとするべきであろう。今年、水害に罹災した村中すべての人民は、保護していただいた功德に感謝して、ここに記念碑を作り、あきらかな戒めとして、末永く後世に伝えることとした。銘に曰く。大水が丘陵を襲い、伯禹に非ざれば人はみな溺れる家屋は水に沈み竈はカエルの棲みかとなる水は床上十尺余り屋根に乗る者木に登る者一家揃って楼上に避難する府知事曰く、人命は重し堤防をわざと切り、樋門を開いて排水した水が引いて土が現れ、すきで耕すことができ本来の生業に戻り、ふだんの生活を取り戻す顕彰の立派な碑を建てて功績を刻む民びとに仁を垂れたのは誰だったのか

明治十九年丙戌春三月建野府知事篆額菊池純撰文邨田浩蔵書丹

★淀川水害（明治 18 年）

●東大阪市 徳庵 水害





(碑文 背景 京都歴史研究 木谷 幹一氏論文から引用)

水害の発生から寝屋川以南での被害概況、復旧活動が刻まれている。

明治十八年六月、長雨が十日も続き、同月十七日に淀川はいきなり水かさが増し、茨田郡伊加賀村で堤防が決壊した。たちまちのうちに氾濫した水は溢れかえり、茨田・讃良・東成の三郡に及び、南は寝屋川まで至った。あたり一面に浩々と水が広がり、ほとんどまさにわが郡内にまで及ぼうとしていた。

そこで、徳庵から角之堂までの凡そ千八百余間に仮設の堤防を築き、不測の事態に備えた。同月二十八日には、二昼夜にわたり劇雨疾風が止まず、水の勢いはますます壮んになり、ついに寝屋川の堤防が決壊して、若江・河内・渋川三郡五十余村は水没してしまった。年寄や子供は大声を上げてわめき叫び、その悲惨さは例えようもなかった。郡の役人や警官は、梶や筏を作り、舟を漕いで溺れているものを救助し、食べ物に困っているものには、衣服や食料を与えて、これを芝、菱屋東新田、高井田、八尾、久宝寺の諸村の寺院や校舎に護送した。生存者は、一万二千四百余人であった。七月八日になると、水没していた地面が現れ、人々はやっと安息した。小作人たちは、享和・文化の水害と比較して、水量はそれよりも五尺あまり高かったといいあった。今年になって、水害に罹災した庶民たちが相談しあっているというには、宮家から受けた保護のご恩は、記録に残さずにはいられないということになり、余は記念碑の銘辞を託された。その銘に曰く、執決滔水堤防を決壊させて洪水を排水し、泄諸尾閭末端の水門をすべて開いて排水し、救塾恤溺：溺れたものを救って助けていただき、住民ははじめて安居することができた。

★淀川水害（明治 18 年）

●寝屋川市 赤井堤 水害





(碑文 背景 寝屋川市 HP から引用)

赤井堤記念碑は、枚方市との境の淀川堤防に立っています。背の高い碑で、明治18年6月の大洪水の翌年に大阪府知事の名で建てられました。

淀川百年史などによると、淀川堤防が決壊して起きた大洪水では、左岸一帯の997町村で7万249戸が浸水し、27万6049人が被災しました。

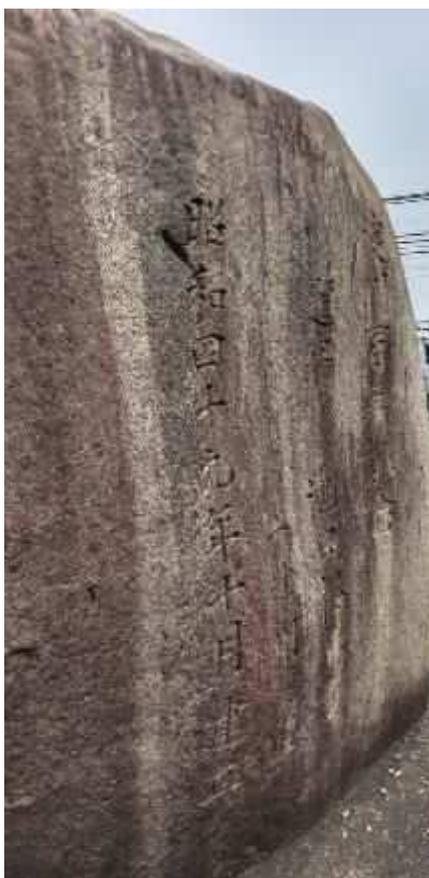
このとき、木屋村の北にあった赤井堤も約360メートルにわたって決壊したといえます。高さ約3.6メートルの碑には「家屋三十五を消失し、良田は土砂流入により壊滅した」と記されています。

当時の新聞では、茨田・讃良郡の死者・不明者は51人に上ったといえます。

記念碑は堤防が決壊した場所に建てられ、水害の怖さを今に伝えています。

★淀川水害（明治18年）

○大阪市 西淀川区 大塚切れ 水害



(碑文 背景 西淀川区 HP から引用)

大正 6 年 9 月末の豪雨により淀川右岸三島郡大冠村(現在の高槻市)大塚の堤防が二百メートルにわたり決壊しました。この洪水の決壊個所から

「大塚切れ」と呼ばれました。三島郡の大半を沈め当時西成郡であった現在の東淀川区、淀川区、西淀川区一帯は泥海と化し、十三付近で浸水八尺(約2.4メートル)に達しました。この洪水による浸水町村数三十一、罹災戸数一万五千四百九十七戸、罹災人口四万六千四百九十一人に達しました。当時の福村では、十月一日夕刻、村民に対して避難するよう通告されました。そして三日昼過ぎ、さらに濁流が押し寄せました。そして十月中旬ようやく淀川の水位が下がりはじめました。浸水各村内の水位の方が淀川より高いので、今の国道四十三号より上流約二百メートルの個所で淀川の堤防を切開して停滞していた湛水を淀川へ流し出しました。福村で地面を見ることができるようになったのは、ほぼ一ヶ月後の十一月五日でした。現在、湛水を流し出すために堤防を切開した地点の右岸堤防に大塚切洪水碑が建てられています。

★淀川水害（その他）

○大阪市 浪速区 安政南海地震 津波





(碑文 背景 大阪市 HP から引用)

1854年12月24日の安政南海地震後に発生した津波によって、安治川・木津川等に停泊する船に避難した人々が大きな被害を受けた。1707年に発生した宝永地震の時に起きた同様の災害の教訓が生かせなかったことを、後世への戒めとして残すため建立されている。

嘉永七年(一八五四年)六月十四日午前零時ごろに大きな地震が発生した。大阪の町の人々は驚き、川のほとりにたたずみ、余震を恐れながら四、五日の間、不安な夜を明かした。この地震で三重や奈良では死者が数多くでた。同年十一月四日午前八時ごろ、大地震が発生した。以前から恐れていたのも、空き地に小屋を建て、年寄りや子どもが多く避難していた。地震が発生しても水の上なら安心だと小舟に乗って避難している人もいたところへ、翌日の五日午後四時ごろ、再び大地震が起こり、家々

は崩れ落ち、火災が発生し、その恐ろしい様子がおさまった日暮れごろ、雷のような音とともに一斉に津波が押し寄せてきた。

安治川はもちろん、木津川の河口まで山のような大波が立ち、東堀まで約一・四メートルの深さの泥水が流れ込んだ。両川筋に停泊していた多くの大小の船の碇やとも綱は切れ、川の流れは逆流し、安治川橋、亀井橋、高橋、水分橋、黒金橋、日吉橋、汐見橋、幸橋、住吉橋、金屋橋などの橋は全て崩れ落ちてしまった。さらに、大きな道にまで溢れた水に慌てふためいて逃げ惑い、川に落ちた人もあった。

道頓堀川に架かる大黒橋では、大きな船が川の逆流により横転し川をせき止めたため、河口から押し流されてきた船を下敷きにして、その上に乗り上げてしまった。大黒橋から西の道頓堀川、松ヶ鼻までの木津川の、南北を貫く川筋は、一面あつという間に壊れた船の山ができ、川岸に作った小屋は流れてきた船によって壊され、その音や助けを求める人々の声が付近一帯に広がり、救助することもできず、多数の人々が犠牲となった。また、船場や島ノ内まで津波が押し寄せてくると心配した人々が上町方面へ慌てて避難した。その昔、宝永四年(一七〇七年)十月四日の大地震の時も、小舟に乗って避難したため津波で水死した人も多かったと聞いている。長い年月が過ぎ、これを伝え聞く人はほとんどいなかったため、今また同じように多くの人々が犠牲となってしまった。今後もこのようなことが起こり得るので、地震が発生したら津波が起こることを十分に心得ておき、船での避難は絶対してはいけない。また、建物は壊れ、火事になることもある。お金や大事な書類などは大切に保管し、なによりも「火の用心」が肝心である。川につないでいる船は、流れの穏やかなところを選んでつなぎ替え、早めに陸の高いところに運び、津波に備えるべきである。津波というのは沖から波が来るというだけではなく、海辺近くの海底などから吹き上がってこることもあり、海辺の田畑にも泥水が吹き上がることもある。今回の地震で大和の古市では、池の水があふれ出し、家を数多く押し流したのも、これに似た現象なので、海辺や大きな川や池のそばに住む人は用心が必要である。津波の勢いは、普通の高潮とは違うということを、今回被災した人々はよくわかっているが、十分心得ておきなさい。犠牲になられた方々のご冥福を祈り、つたない文章であるがここに記録しておくので、心ある人は時々碑文が読みやすいよう墨を入れ、伝えていってほしい。

安政二年(一八五五年)七月建立

※下線は、辻が記載

★安政南海地震

○大阪市 天王寺区 四天王寺 安政南海地震 津波



(碑文 要約)

嘉永7年11月4日・5日(1854年12月23日・24日)の地震被害を避けようと小船に避難した者たちが、湧くような勢いで木津川口に押し寄せた津波によって、大小の船もろとも上流へ押し流され、おびただしい死者を出した。海鳴があつたり潮の干満が乱れたりする時は津波の兆しと知って、避難するよう記している。

(碑文 原文)

[正面] 諸国地震及洪浪南無阿彌陀佛水陸横死大菩提

[南面] 去年霜月四日五日の地震を遁のがれん為に小船に乗居し輩 やから俄にわか
の洪浪湧か如く木津川口邊の大小数あまた船一時に川上に押寄橋を落し船を
摧くだき漂没死人夥おびただし尤前日より海鳴潮の干満乱しを志ら寿して死に
至る者寔まこと憐むへし后世

[裏面] 海鳴潮の干満かんまんみだれし時は早く津波の兆と知りて難をのかれ玉
ふへしと云う爾のみ 安政二乙きのと卯秋建之

[北面] (梵語の記載のみ)

★安政南海地震

●大阪市 生野区 舍利尊勝寺 安政東南海地震 津波



(碑文 原文)

〔西面〕永代常念経回向 当寺

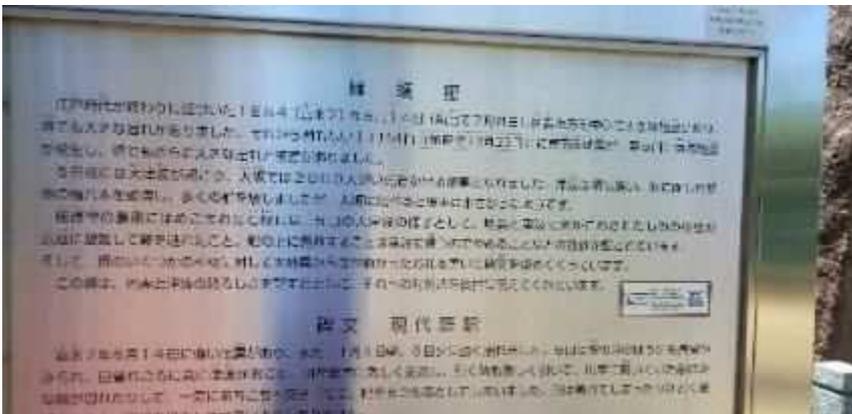
〔南面〕為地震津波横死建之 〔北面〕嘉永七年甲寅十一月

嘉永7年11月と、安政東南海地震が起こったまさにその月の年紀がみられることから、この災害に動機づけられて建立されたものと思われる（安政へと改元されたのは同月27日）

★安政南海地震

○堺市 大浜北町 擁護壘（ようごじ）（安政地震記念碑）





(碑文 要約)

嘉永7年(1854年)11月5日(旧暦)の安政南海地震後に発生した津波が川を逆流し、堺でも8つの橋が落ち船が割れるなどの被害を受けた。しかし、住民は神社の広い境内に避難するなどして怪我をした人もいなかった。宝永地震(1707)では船に避難して命を落とした人も多い。地震が強いときは決して船に避難してはいけない。(現在地へは1895年に移設)

★安政南海地震

●大阪市 鶴見区 寝屋川改修記念碑 水害



(碑文 要約)

寝屋川は交野市星田を水源とし、河内から大阪市内までを東西に結ぶ重要な水路である。かつては農作物や肥料を運搬した剣先舟や、野崎参りの屋形舟が利用していた。洪水時には、濁水が氾濫して住民に危険が及んだことから、「放出の太閤さん」と称された大橋房太郎が立ち上がり、寝屋川改修を訴え続けた結果、大阪府は改修工事に着手し、昭和2年(1927)に新喜多橋～徳庵区間が竣工した。

★寝屋川水害

●大阪市 鶴見区 正因寺境内 六郷修堤碑 水害



(碑文 要約)

明治 18 年 (1885 年) 淀川堤が伊加賀で決壊し、大阪は有史以来の大水害に見舞われた、当時大橋房太郎は弱冠 25 歳、東京で鳩山和夫氏 (元総理大臣鳩山一郎氏の父君) の書生として法学の勉強をしていたが、その惨状を目のあたりにし治水事業の重要かつ緊急性を痛感するや鳩山総理の許しを辞して大阪に帰り淀川をはじめ寝屋川、六郷川などの治水事業に命を捧げ世に「治水翁」と尊称され、庶民からは「放出の太閤さん」呼ばれた。

六郷修堤碑には度重なる六郷川の水害に悩む当時の村の様子と村民を救済するため村長として同川の改修事業に立ち上がり、困難を乗り越え事業の成功に向かって、いかに尽力されたか、一端と事業の概要などが記されている。

碑は、当初阿遅速雄神社境内に建立されたが、その後放出大橋の南側に移され同橋の改修工事に伴い平成 15 年 (2003) 7 月、本因寺境内に再度移された、六郷川は、もと旧寝屋川の南沿いを向川と共に流れていたが、昭和 3 年 (1928) 一本化され現在の寝屋川となった。

修堤碑の奥に、大橋房太郎氏の墓を中央にして左には氏の後任の村長、碑の撰文者でもある牛谷彌氏の墓があり右には村会議員で氏のよき理解者であり片腕とも言われた森田嘉平治翁の顕彰碑がある。先人たちの篤き思いが、ここにこの修堤碑を呼び寄せたとの思いが伝わってくる。

★淀川水害 (明治 18 年)

●大阪市 中央区 大阪城公園内 教育塔 室戸台風等 強風・高潮



（碑文 背景）

1934年9月21日朝、室戸台風が関西地方を襲った。秒速60mという強風及び大高潮はあらゆる方面に大惨事を及ぼした。

学校においては始業の前後でもあり多数の木造校舎が倒壊し、教職員25人をはじめ600人を超える子どもたちが亡くなるなどの甚大な被害があった。

災害直後、大阪の教育界は二度とこのような惨事が起こらないことを願って、子ども、教職員を追悼し、その名を永くとどめるため、記念碑の建設を発議し、帝国教育会が臨時総会において記念塔を建設することを決定した。

全国の教育関係者はこの呼びかけにこたえ、児童、生徒、教職員、一般有志の方から32万円を超える寄付が寄せられ、大阪城公園に教育塔ができた。

1935年（昭和10年）9月地鎮祭、1936年（昭和11年）8月定礎式、1936年（昭和11年）10月30日に竣工の運びとなり、この日に第1回教育祭が行われた。以来、教育祭は例年10月末に挙行されてきた。

塔の建築には教育塔建設費に17万5千円、式典費、準備費等で合計32万円ほどがかかった。公募により、塔の設計は島川精さん、塔の正面のレリーフは長谷川義起さんが選ばれた。

祭典は建設当時から神式あるいは仏式で行われていたが、1948年、日本教育会（「帝国教育会」改称）が解散、日本教職員組合が塔の維持・管理と教育祭の主催を受け継いでからは、宗教色をなくすよう努め、現在は無宗教形式で行われている。1981年には、教育塔内正面の塔芯文「咸一其徳」（咸其の徳を一にす）から「やすらかに」に改め、塔芯裏の「説明文」を戦前調のものから現代風に改められた。

1986年には「合祀」を「合葬（がっそう）」に、「祭主」を「主催者」に「奉納音楽」を「追悼音楽」に、献花中の音楽を「越天楽」から「葬送曲」に変更された。

第50回（1985年）教育祭では180人が合葬され、特別合葬者の中には御巢鷹山での日航機墜落事故（1985年）の犠牲者41人が含まれている。

第60回（1995年）教育祭では、阪神・淡路大震災で自宅の倒壊や火災により亡くなった121人の特別合葬者を含む154人が合葬され、「教育塔説明掲示板」も全面的に書き改められた。

第70回（2005年）教育祭では、新潟県中越地震により亡くなった4人の特別合葬者を、第77回（2012年）、78回（2013年）、79回（2014年）の教育祭では東日本大震災の犠牲となられた51人の特別合葬者を含む方々を合葬している。

★室戸台風（その他）

○高槻市 清福寺町 陸軍工兵殉難之碑 水害





(碑文 要約)

昭和10年(1935年)6月29日、関西地方は前例のない豪雨に見舞われた。周辺の河川で決壊が起こる中、芥川でも増水し、今にも決壊する恐れが高まった。工兵隊に出動要請をし、水防活動が行われた。その最中、工兵1名が激流にのまれ、殉職した。(北野小一郎上等兵は、芥川の増水に際し堤防防御に出動、木流し工法により決壊を防ぐものの作業中に濁流に転落し殉職した。その殉職された上等兵北野小一郎さんの慰霊顕彰碑が真上門前橋を少し南に下がった桜堤に建てられている。)

★分類困難

●大阪市 此花区 津波





(碑文 背景 此花区 HP から引用加筆)

安政三年海嘯溺死者各位之靈

此花区内における江戸時代最後の新田開発請負人、常吉庄左衛門の没後50回忌にあたる明治40年に建立された。併せて安政元年(1854年)の海嘯(津波・碑面には安政3年となっている)による犠牲者を祀っている。この辺りは、大正期ごろまで美しい松が生い茂り「千本松」といわれていたが、今はその面影はない。

★分類困難

●大阪市 此花区 正蓮寺 濃尾地震 震災





(碑文 背景 長尾武氏論文から引用)

遠く濃尾地震によって亡くなった職工・女工さん 22 名の慰霊碑

(『浪華紡績会社震災死の慰霊碑』)

遙かに離れた岐阜を震源とする地震が、なぜ、大阪で犠牲者を出すほどの被害を引き起こしたのか。浪華紡績会社・工場の倒壊 濃尾地震での大阪府の死者 24 名のうちの 22 名は西成郡南伝法村（現大阪市此花区）の浪華紡績会社（現在、UR 伝法団地）で働いていた職工・女工さんだった。浪華紡績会社は、明治 21 年（1888）開業、据付錘数一万錘以上の大工場で、西洋式の新築間もない工場が倒壊した。倒壊した第二工場は 50 間（90 メートル）に 20 間（36 メートル）のレンガ造三階建、昼夜交代制で、地震が起こった 6 時 30 分頃は、前夜から勤務していた者と昼間勤務の者とが交代した直後であった。当時 567 名の労働者が工場内にいたが、ただならぬ地震の揺れに驚いて、多数の職工・女工さんは狭い階段を先を争って階下に逃げようとした。工場の屋根が落ち、さらに三階の壁が内部に向けて倒れ、多くの職工・女工さんたちが瓦礫の下敷きとなった。当時の大阪朝日新聞の挿絵から、3 階の大部分が崩壊したことが分かる。

朝にかかわらず、多数の死者があったのは、昼夜 2 交代制の厳しい労働条件だったからであろう。

女工さんたちは工場と正蓮寺川の中州にあった寄宿舍を往復する毎日であった。細井和喜蔵『女工哀史』に浪華紡績会社の被災についての記述がある。

（ただし、死者数などについての誤りもある。）近代的紡績工場がなぜ倒壊したか？ 被害地を調査した大森房吉は浪華紡績会社の倒壊について、大阪のように地震の揺れがそれほど強くない地で倒壊したのは、設計に問題があったとしている。また、工場の二階三階の床横木は壁の切り込みに載せてあるだけで、建物が振動するに連れて壁から脱落してしまったと述べている。付近の民家や寺に大きな被害が無かったことから、工場の倒壊は耐震性が極度に劣っていたといえよう。大阪府下での揺れの強さ濃尾地震によって浪華紡績会社が倒壊し、22 名の犠牲者がでた。大阪府下での死者は、浪華紡績会社を除けば 2 名であった。当時、大阪市内（東・西・南・北区）では倒壊した家屋は北区で 4 戸であった。西成郡では、現西淀川区千船で寺院の本堂が倒壊、御幣島で

田畑が陥没、現大正区三軒家でレンガ造の建物に被害、郡全体で倒壊家屋は9戸であった。東成・住吉両郡では家屋の倒壊は5戸、多くの石灯籠が倒れた。生駒山地の西側低地に位置する河内地方で最も被害が大きく、若江郡、現・東大阪市で55戸が倒壊した。住家の被害程度から、大阪府下の震度は弱いところで4、強いところで6弱と推定された。鉄筋コンクリート造建築の主流化濃尾地震は近代化の途上にあつた日本の国民、政府にとって大きな衝撃であつた。翌年、震災予防調査会が発足し、「被害の軽減」を任務として、具体的には「耐震建築の方法」と「地震予知の方法」を開発することに力を注がれた。レンガ造建物の非耐震性が認識され、耐震性・耐火性を併せ持つ鉄筋コンクリート造建築が注目されるようになった。

1923年に起こった関東大震災でも、再びレンガ造建築に多くの被害が出て、以後、鉄筋コンクリート造建築が主流となった。

しかし、弱いと思われているレンガ造であるが、英国人コンドルの指揮によって施工されたレンガ造など、関東大震災でも無被害であつたものもある。レンガという材料に問題があるのでは無く、造り方の問題もあるといえよう。当時の建築技術をリードした佐野利器は、

「鉄筋コンクリート構造はその手法よろしきを得れば最も簡単に耐震、耐火、耐久のたり得べきことを断定し得る」

と述べている。また、関東大震災後、麴町番町小学校の鉄筋校舎建設に尽力した同小学校主席訓導・肥沼健次は

「設計に誤りが無く、施工に誤魔化しが無ければ、本建築（鉄筋コンクリート造）の耐久力は実に偉大なもの」

と述べている。設計、施工が正しく行われるという条件がそろって、鉄筋コンクリート造の耐震性が保証される。

承継法人の東洋紡におかれては、毎年お盆の時期にお参りされておられるとのことである。

石碑の文字の下には「震災」という文字が刻まれている。

★分類困難

●大阪市 福島区 海老江中公園内 水害



(碑文 背景)

淀川流域は明治 18 年の大洪水をはじめ、長年にわたり水害によって大きな被害を受けていた。改修への要望は大橋房太郎によって具体化し、明治 30 年)に着手、明治 41 年にほぼ完成した。蛇行川をまっすぐにするため、海老江村は 7 割近くが水没した。新しい川は「新淀川」と呼ばれ、水害の被害は少なくなった。

(碑文 原文)

疏河紀恩之碑

澱江之水浩浩洋洋岐於神崎枝於中津其本流則入浪華故受利多在城市被害率在郡村當其一時暴漲則破堤流土汎濫橫溢村沒於泥海人叫於飢渴豈不可謂慘哉沿岸志士憂之有年一旦奮起大圖除其害講法於學術竭力於建議上下兩院遂納之政府可之於是廿九年起工州九年略竣功蓋旧中津川直径凡二百間今則為三百六七十間水路自長樂分下至海口旧長六千七百廿間今則為五千三百間其堤防堅實宛然如丘阜而南堤外別鑿一渠便於漕運總資凡一千万円其半費于此中津川是疋為本区改修之大要嗚呼今也沿岸衆庶各安其業而得遂仰事俯育之樂音抑誰之賜也今茲西成郡海老江部落某々相謀欲建石於祇園祠前紀其恩以告後世子孫來請予文乃叙其梗概且之銘曰澱江之水神世叵稽其見于史曰茨田堤此花之址世伝遺芳豊崎之跡幾遭滄桑、武門迭興豺平是虎磨爪張牙何間民苦、元和偃武頗治河川仍是霸術用威弄權、懿

矣明治先民之利疏河大成生死易地、昔泣泥海今醉春風維此貞石永勒偉功明治四十一年歲次戊甲春三月、浪華黙化道人田部密撰并書浪華大黒橋飯田明尊刻

★淀川水害（明治 18 年）

○大阪市 城東区 榮照寺 室戸台風 風水害





(碑文 背景)

昭和9年(1934年)9月21日の朝、近畿地方一帯を襲った室戸台風により、城東区内では寝屋川、平野川が氾濫したため新喜多、鳴野、蒲生、今福、放出、中浜一帯が浸水し、多数の家屋に被害が出た。城東区内の2つの小学校が暴風に耐えきれずに全壊し、児童教職員56名の命が奪われた。子どもの犠牲が大きかったのは、台風襲来時と登校時が重なったことと、木造校舎の倒壊のためであり、以後大阪市では校舎の全面鉄筋化を進めることとなった。



天王寺第一小学校校庭での授業 昭和9年 個人蔵から引用

大阪市内の小学校では、全 244 校の約 7 割で、暴風により校舎が全壊するなどの被害があり、児童・職員合わせて 278 名がなくなった。天王寺第一小学校（現天王寺小学校）でも大正 8 年（1919）竣工の木造校舎が全壊したが、校長の指示で鉄筋コンクリート造の講堂に児童が避難したため、一人の犠牲者も出さなかった。大阪市ではこの台風被害を受けて校舎の RC 化が進められていくことになった。

★室戸台風（その他）

○大阪市 城東区 今福小学校 室戸台風 風水害



(碑文 背景)

昭和9年(1934年)9月21日の朝、近畿地方一帯を襲った室戸台風により、城東区内では寝屋川、平野川が氾濫したため新喜多、鳴野、蒲生、今福、放出、中浜一帯が浸水し、多数の家屋に被害が出た。鯉江第三小学校(現在の今福小学校)が暴風に耐えきれずに全壊し、児童33名の命が奪われた。子どもの犠牲が大きかったのは、台風襲来時と登校時が重なったことと、木造校舎の倒壊のためであり、以後大阪市では校舎の全面鉄筋化を進めることとなった。

★室戸台風(学校内)

○大阪市 城東区 聖賢小学校 室戸台風 風水害



(碑文 背景)

昭和9年(1934年)9月21日の朝、近畿地方一帯を襲った室戸台風により、城東区内では寝屋川、平野川が氾濫したため新喜多、鳴野、蒲生、今福、放出、中浜一帯が浸水し、多数の家屋に被害が出た。鯉江第二小学校(現在の聖賢小学校)が暴風に耐えきれずに全壊し、児童22名、児童の兄1名、教員1名の命が奪われた。子どもの犠牲が大きかったのは、台風襲来時と登校時が重なったことと、木造校舎の倒壊のためであり、以後大阪市では校舎の全面鉄筋化を進めることとなった。

室戸台風(学校内)

●大阪市 西淀川区「外島保養院」跡地 室戸台風 風水害



(碑文 原文)

「明治四十二年四月 法律第十一号ニ基ツキコノ地ニ第三区府県立「外島保養院」設立サレル 即チ 大阪府主管ノモト京都 兵庫 奈良 和歌山 滋賀 三重 岐阜 福井 石川 富山 鳥取 の二府十県連合ニヨル 公立ハンセン病療養所トシテ開設サレタノデアル

昭和九年九月二十一日室戸台風ノ襲来ニヨリ施設ハ壊滅流失 患者百七十三名 職員三名職員家族十一名ガ死亡スル大惨事トナリ生存患者四百十六名ハ全国六施設ニ分散委託 昭和十三年四月岡山県長島ノ西端ニ名称ヲ光明園ト改メ復興 昭和十六年国立移管 邑久光明園ト改称現在ニ至ル

平成八年四月「らい予防法」廃止サレル 強制収容絶対隔離ヲ根幹トシタ日本ノハンセン病対策ノ終焉ヲ記念シ外島保養院ノ日々ニ思イヲハセ茲ニ記念碑ヲ建立スルモノデアル

平成九年十一月 邑久光明園入園者自治会」

(碑文 背景)

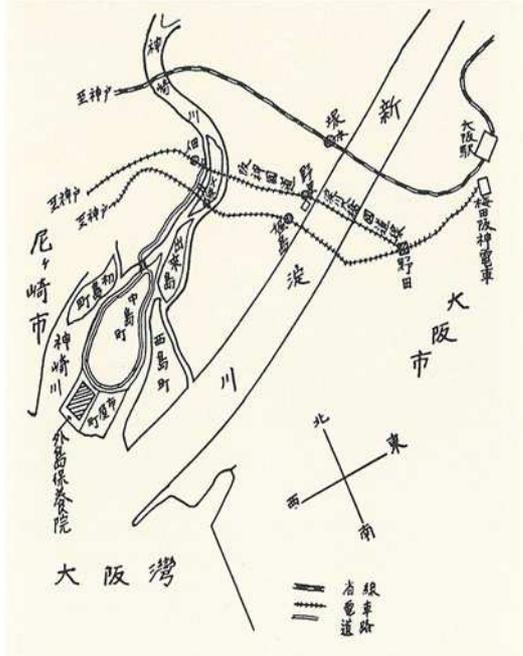
「外島保養院」は明治42年(1909年)に開設されたハンセン病療養所である。当初、敷地2万坪、定員300名の規模であった。なおも増設工事が行われていた、昭和9年(1934年)9月21日の室戸台風により入所者173名(当時の入所者597人の約3割)・職員3名・職員家族11名・施設拡張工事関係者9人、計196名の尊い命が奪われた。

壊滅的被害を受けた建物は再建されることなく、岡山県邑久郡の長島に「邑久光明園」として再興された。

ハンセン病患者に対して、国・地方自治体が推し進めた強制隔離政策は、重大な人権侵害であり、社会に様々な偏見・差別を生み、患者・元患者・家族の方々に多大な苦痛と苦難を強いてきた。「らい予防法」が廃止されたことを記念して国立療養所邑久光明園入園者自治会の方々が、「外島保養院」跡地に平成9年(1997年)11月19日記念碑を建立された。



「第 38 回地方自治研究全国集会第 7 分科会 福祉、環境、農業…地域の宝を
探し出せ」から引用



「People / ハンセン病に向き合う人びと」から引用

殉職悲話の絵画は、大阪府津波高潮ステーションにて撮影

★室戸台風（その他）

○大阪市 東成区 深江南 水害





(碑文 要約)

明治18年(1885年)の淀川洪水のうち6月末~7月初めにかけての2度目の水害について記す。深江村においては6月30日の夜から浸水し、水位は庭の地面から約2.6mに達し、土塀が皆倒れた。村民は上本町の寺院などに避難したが、1箇月余りのちに帰村しても家も仕事もない状態であった。平時にあっても災害時の窮状を忘れないようにと戒めている。

(碑文 背景 日経2021年4月8日から引用)

菅笠の里・深江に残る水害碑、幕末~大正期の歴史映す時を刻む江戸時代に盛んだった伊勢参り。大坂からの道中で人々は、「深江の菅笠」を買い求めた。その産地だった大阪市東成区の深江地区で2020年12月、旧家の土蔵で眠って

いた2基の石碑の除幕式が行われた。1基は幕末～明治期の災害や騒動、もう1基は特に被害が甚大だった明治18年（1885年）の淀川洪水について記す。水がもたらす恵みと危険に寄り添い暮らした人々の息づかいが伝わる。

2基の石碑は今、同区深江南の深江郷土資料館の敷地に立つ。同館の代表理事、石川健二さんらによると、石碑は同館に隣接する旧家の土蔵に保存されていた。旧家の邸宅は総檜（ひのき）造り2階建てで築80年以上。20年春に地域の歴史資産として保存することが決まり、石碑の調査も始まった。

碑文の解読を担当した市立枚方宿鍵屋資料館（大阪府枚方市）の学芸員、片山正彦さんによると、経年劣化で判読できない箇所もあったが、2つの石碑には幕末から明治にかけて起きた災害や騒動、それらが人々の暮らしにどう影響したかが克明に記されていた。

明治18年淀川洪水を伝える石碑は高さ約180センチ。片面に「十八年洪水」、その裏に「酉歳（とりどし）記念碑」と大きく横書きされ、碑の4面に文字が刻まれる。氾濫を繰り返した淀川の歴史の中でも、明治18年の水害は特に被害が大きく、日本における最初の近代治水工事、新淀川の開削（1909年完成）を含む淀川改良工事のきっかけにもなった。

その歴史的な水害は、1885年6～7月に発生した。豪雨による増水で現在の枚方市付近の堤防が決壊。さらに台風が追い打ちをかけ、濁流が南西方面を襲った。大阪府内の浸水家屋は7万戸を超え、現在の大阪市内も上町台地を除く低地部の大半が浸水した。生駒山地と上町台地に挟まれた地帯は、古代には河内湾と呼ばれる海だった。そこに淀川などが運ぶ土砂で肥沃な平野が形成されていたが、この水害の浸水域はまさに古代の河内湾のような様相だったという。深江の地には、笠を縫うことを職業とした古代の大和の氏族が移り住んだ笠縫島があったという伝承があり、一帯は菅笠の材料となる良質な菅（すげ）が茂る湿地だったという。江戸期には伊勢参りの菅笠で栄え、水辺の暮らしの恩恵を受けたが、水害もまた身近だった。

★淀川水害（明治18年）

●大阪市 港区 築港南公園 水防碑 水害





(碑文 背景 大阪市港区 HP から引用)

昭和9年9月21日、風速60メートルに達する室戸台風が大阪を直撃し1,800名余りの死者が出ました。室戸台風の被害を忘れず、犠牲者の霊を慰め、全国からの救援に感謝する趣旨で昭和11年(1936年)9月に「風水害記念碑塔」が建てられました。しかし戦災にあい、築港中学校の敷地となるために撤去され、現在は碑文のみが昭和51年(1976年)に新たに造られた「水防碑」とあわせて、築港南公園入口に設置さ

れています。また水防碑には「災害は忘れたころにやってくる」と記され、災害の恐ろしさを伝えています。

(碑文 原文)

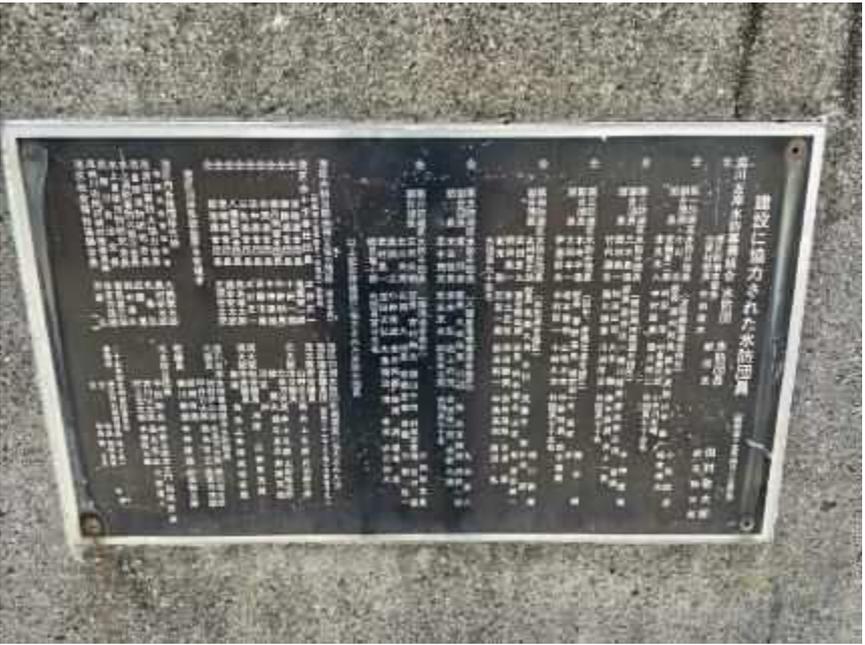
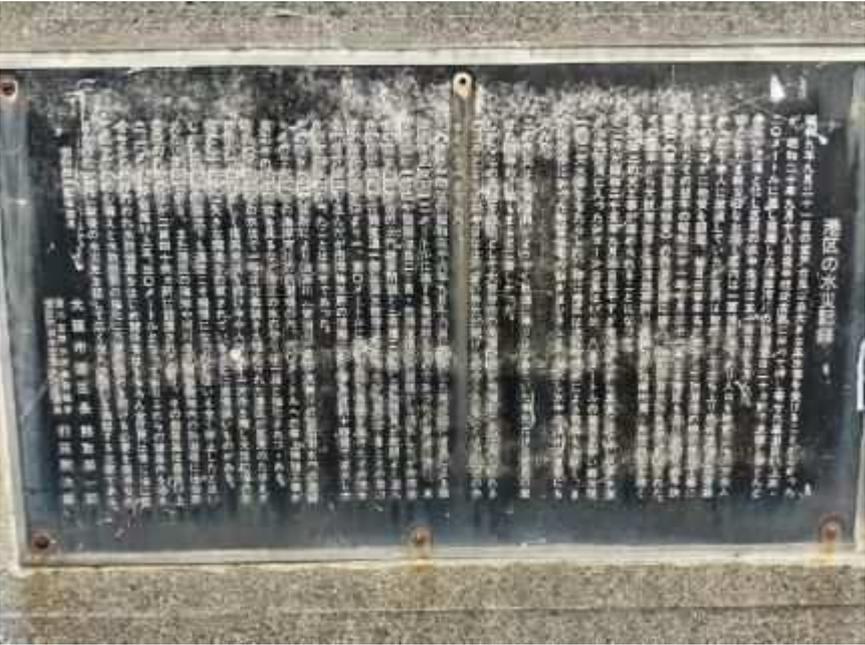
港区をはじめ西大阪は、これまで高潮により幾多の水害に見舞われたが、なかでも昭和9年(1934年)の室戸台風、同25年(1950)のジェーン台風、36年(1961)の第2室戸台風により多くの人命と財産が失われた。近年こうした大水害は、ほとんど見られなくなったが、このような平時においても、なお一層人々が、水防意識を高め不断の努力で災害を防除することを念願してこの碑を建立し、あわせてこの近くに建立されていた風水害記念塔の銘板を右に設置する。

昭和52年 秋 大阪市

★水防碑(大阪市)

●大阪市 港区 天保山 風水害







(碑文 要約)

「港区の水災記録」昭和20年(1945年)9月18日枕崎台風による被害で防潮堤が決壊。区民への水害影響は54日にも及んだ。戦災による人口の激減・物資窮乏の中で区民は懸命に立ち上がり防潮堤を補強。「港防潮区分団」を創設した。昭和25年(1950年)9月3日ジェーン台風により大水害を被る。港区は特に被害甚大で、水中生活は12日にも及んだ。この災害を教訓に大阪府市が高潮対策を拡充強化する。昭和36年(1961年)9月16日猛烈な第二室戸台風が襲来。市岡方面まで流水が及んだものの浸水による大きな被害はなかった。港区で発生した台風による水災被害と区民の尽力による水防の記録が刻まれている。

★分類困難

○大阪市 西区 九条東小学校 暴風水害記念誌 室戸台風 風水害







(碑文 要約)

朝方、室戸岬（高知県）より風速 60mの突風台風は、3mほどの高潮と伴い、午前 8 時に大阪市を襲い、これまでにない惨禍をもたらした。市内の家屋、工場、店舗は倒壊・流失、公営物の損害等あり、死者 990 名、重軽症者 16908 名にのぼった。なかでも小学校の被害は最も甚だしく、校舎の全壊 28、半壊 71、大破 77、それに、殉職教員 7 名、惨死児童 269 名に及んだ。九條一帯は大きな難は免れるが、屋根瓦は木の葉のごとく飛び散り、濁流が押し寄せ、全戸床上浸水し、交通・通信・電燈は途絶し、各学校に殺到し、避難者は 100 名に達した。前代未聞の大災に遭ったが、当西区内にひとり死傷者も出ずに復興の途についたのは神明の加護によるものと区内の関係者各位の応急の措置によるもので、『禍を転じて福と為し』で、今や新興の気概をもち、第一、第二、第五各小学校の復興も目前にありここに九條教育会は各種団体と協議し事蹟を碑に刻みこれからの戒めの備えとする。

昭和 13 年 3 月

(碑文 原文)

昭和九年九月二十一日早暁室戸岬を掠メタル風速六十米突ノ猛颯風ハ三米突ニ近キ高潮ヲ伴ヒ其ノ日午前八時我カ大阪市ヲ襲ヒテ實ニ前古未曾有ノ惨禍ヲ齎ラシ市内住家工場店舗ノ倒壊流失公営物ノ損害等算ナク死者九百九十名重軽傷者一萬六千九百八名ニ上レリ
就中小学校ノ被害最モ甚タシク校舎ノ全壊二十八半壊七十一大破七十七ニ及ビ爲ニ殉職教員七名惨死児童二百六十九名ヲ出セリ我カ九條一圓亦此ノ禍難ヲ免ルニ能ハス烈風ニ屋根瓦ハ木ノ葉ノ如ク飛散シ濁流ハ滔々トシテ全戸ノ床上ヲ浸シ街上恰モ舟ヲ行ルヘク交通通信ノ便杜絶シ電燈モ之ヲ点スルニ由ナク上水

並ニ瓦斯ノ用モ亦断タレ各学校ニ殺到セル避難者數百名ニ達シ人心兢々危惧困
惑名状スベカラス斬ル前代未聞ノ大雙災ニ遭遇シテ然モ當聯合區内ニ一人ノ死
傷者ヲモ出サスシテ復興挽回ノ途ニ就クヲ得タリシハ是レ洵ニ神明ノ加護ニ依
ルモ區内各学校關係者應急ノ措置ノミナラス青年團在郷軍人分會國防婦人會專
ラ警備配給ニ任シ方面委員衛生組合ノ諸氏等主ニ救護衛生ノ衝ニ當リ各々挺身
戮戦カシタリ其ノ勞ヤ多トセサルヘカラス爾來當路者ノ熱誠ト區民一致ノ不撓
ノ努力ハ禍ヲ轉ジテ福ト爲シ今ヤ新興ノ氣街衢に漲リ損傷甚ダシカリシ第一第
二第五各小学校ノ復興モ目睫ニアリ此時ニ方リ九條教育會ハ各種公共團體ト相
議リテ此ノ災雙ノ事蹟ヲ碑ニ刻シ以テ向米ノ鑒に備フ
昭和十三年三月

★室戸台風（学校内）

●枚方市 長安寺 室戸台風 暴風





(碑文 原文)

遭難供養塔

昭和九年九月廿一日午前八時未曾有ノ大暴風関西一圓ニ襲來セリ風速六十米ヲ突破シー瞬ニシテ我ガ牧野小學校倒壞シ訓導松田武行伊東綾子ニ氏殉職セリ學童田宮操岡本朝野中瀨ハル子中城正雄山本岩夫田中茂代松村祐吉笠井政枝北牧キミ子上田恵美子嶋田愛子小川タツノ日垣スミ田中正夫井口アキノ十五名其災禍ニ遇ヒ犠牲トナル 寔ニ痛恨限リナシ茲ニ小碑ヲ建テ以テ諸士ノ英靈ヲ慰メントス

昭和十年九月廿一日

長安寺住職

村田 瑞澄 建立

★室戸台風 (その他)

○寝屋川市 水本墓地 室戸台風 暴風





(碑文 原文)

昭和九年九月二十一日午前七時五十分近畿地方ニ大颱風襲來シ本村小學校新築
ニ階建て校舎倒潰シ學童死者十三名ノ犠牲者ヲ出シタリ翌二十二日大字燈油七
名ノ個人葬ヲ當墓地ニ行ヒ超ヘテ十月二十一日小學校校庭ニ於テ校葬ノ禮ヲ以
ッテ合同葬ヲ營マル参列者知事代理以下二千余名實ニ前古未曾有ノ盛典ナリキ
茲に遺族相謀リ一碑ヲ建テ永久ニ記念セシントス

昭和十年二月二十一日 建之

「ゆく里なく花の蕾ちらしたる風うらみつつみ魂安めむ」

(碑文 要約)

昭和9年(1934年)9月21日午前8時、大阪に上陸した室戸台風では、風速60mの強風と満潮が重なったことで、阪神地方に高潮による浸水、堤防の決壊等の被害をもたらした。寝屋川市では、当時の水本尋常高等小学校の新築2階建校舎が強風で倒壊し、児童13名が亡くなった。この碑は、当時の燈油出身者7名の慰霊碑。

★室戸台風 (その他)

○寝屋川市 打上墓地 室戸台風 暴風





(碑文 要約)

昭和9年(1934年)9月21日午前8時、大阪に上陸した室戸台風では、風速60mの強風と満潮が重なったことで、阪神地方に高潮による浸水、堤防の決壊等の被害をもたらした。寝屋川市では、当時の水本尋常高等小学校の新築2階建校舎が強風で倒壊し、児童13名が亡くなった。この碑は、当時の打上出身者5名の慰霊碑。

★室戸台風(その他)

●茨木市 安威川茨木川合流 水害





1920年代の茨木の地図⇒茨木川と安威川が合流していない。



2000年代の茨木市の地図⇒茨木川と安威川が合流しており1920年のより川が直線化されている。

(碑文 背景と現在)

茨木川と安威川は過去に堤防の決壊を起こしていた。1934年7月に豪雨により茨木川と安威川が決壊。1935年6月にも茨木川と安威川が決壊。そして、同年8月にも茨木川と安威川が決壊。これでは、何度も何度も決壊してしまい何度も洪水で町がやられてしまうということで、当時の茨木町が対策を講じようとする。

茨木町や周辺流域の自治体、大阪府だけでは改良工事できないということで、大阪府は政府に援助を求めた。そこで茨木川と安威川の改良工事をするこ

とが決定した。改良工事の案として、茨木川と安威川を合流させることだったが、安威川流域の住民が反対。そこで、河川を直線化して決壊の恐れを減らし、堤防をより高くし、河川を低くし、合流地点には茨木川側に水門を設置する、ということで合意。

そして、1937年に工事が開始された。その結果、1943年に茨木川の付け替え工事が終わり、1949年に合流地点より下流の茨木川が廃川となった。

しかし、1967年に茨木市を含め集中豪雨を襲い、茨木川と安威川は再び決壊してしまい、多数の人的被害や建物に被害が出た。そこで、安威川の流域である茨木市、高槻市、吹田市、摂津市、大阪市の市長らが安威川ダムを建設する河川整備を大阪府に要求。安威川は東海道新幹線や名神高速など日本の大動脈を通過する河川であり再び決壊を起こしてしまえば、大阪だけではなく全国にも物流などで二次被害が発生する可能性があり、大阪府は安威川の上流にダムを建設することになった。

★分類困難

●枚方市 砲弾解体中の引火





↑ 枚方市 HP から（現地撮影物理的に不可のため）

（碑文 原文）

昭和十四年三月一日本町禁野区内ニ火災勃発スル中、本町公設消防組員茨木安三、小笠原慶五郎、小路政治郎、出口義三、坂本彌市、瀧川義秀、西川重吉、丸山利吉門、田豊繁、竹内丑太郎、今堀春三、余膳繁一郎、森本藤松、山中道雄、森崎丑松並ビニ町会議員山本徳次郎ノ諸氏ハ決然現場ニ出動善ク消火ニ奮闘シ、遂ニ殉職ス。其ノ行動タルヤ実ニ警防精神ノ発露ニシテ衆庶ノ龜鑑タリ以ッテ茲ニ碑ヲ建立シ諸氏ノ遺勲ヲ永久ニ讃フ。

昭和十五年三月一日 枚方町建之

（碑文 枚方市 背景 HP から引用）

戦前、この一帯には、陸軍の兵器用火薬や砲弾・弾薬を収蔵する禁野火薬庫がありました。禁野火薬庫は、昭和14年（1939）3月1日午後2時45分、大爆発を起こし、火薬庫はもちろん周辺の住民に大きな被害をもたらしました。軍人・民間人を含む死者100人近くにのぼり、家屋の全半焼は821戸および多数の負傷者を出す大惨事となりました。この殉職記念碑は火薬庫の大爆発による消火活動等に従事して殉職した消防関係者16名を慰霊するため、昭和15年（1940）3月1日に建立されました。枚方市は、禁野火薬庫大爆発から50年目の平成元年（1989）に、「3月1日」を「枚方市平和の日」と決めました。



(碑文 原文)

殉職義烈之碑



(碑文 背景 現地案内板より)

戦前、この一帯には、陸軍の兵器用火薬や砲弾を収蔵する禁野火薬庫がありました。禁野火薬庫は、1939年3月1日午後2時45分、大爆発をおこし、火薬庫はもちろん周辺の住民に大きな被害をもたらしました。軍人・民間人を含む死者100人近くにのぼり、家屋の全半壊821戸および多数の負傷者を出す大惨事となりました。この「殉職義烈之碑」は、禁野火薬庫職員38人の殉職者を慰霊するため、昭和15年(1940)3月1日に建立されました。枚方市は、禁野火薬庫大爆発から50年目の平成元年(1989年)3月1日に、「3月1日」を「枚方市平和の日」と決めました。 枚方市

★火災

● 摂津市 千本つきの歌 淀川 水害





(碑文 原文)

千本つきには／調子のござる足と手と口／三拍子。

(碑文 背景)

千本つきとは、土木作業の一種の地固め作業のこと。古代から淀川は、沿川に住む人々に多くの恵みをもたらしたが、その半面洪水が多く、推古天皇の時代から記録に残されているものだけで、**250回**を越えるといわれている。そのつど労役に駆り出されたのは、両岸の農民達であった。明治**18年**の大洪水をきっかけに、本格的な堤防工事が始まり、沿岸の農民達は労働者として河川工事に参加。男達はモッコやトロッコで土を運ぶ仕事をし、女達は五尺(**1.5m**)ほどの杵を持って堤防上に並び、土砂を突き固める作業を受け持つ

た。そのとき歌われた「千本つきの歌」の冒頭部、「千本つきには／調子がござる足と手と口／三拍子」が石碑に刻まれている。

★淀川水害（その他）

●枚方市 上庄南之口樋跡 水害





(碑文 背景)

江戸時代に淀川大洪水があり、洪水を下流に流す為に五兵衛が赤井堤を切ったと誤解され、下流の村人からリンチにあい殺された。後に新たに赤井堤に悪水を流す樋が造られこれを五兵衛樋と呼ばれた。

★分類困難

●堺市 関西大風水害殉職者慰霊碑 室戸台風 風水害



↑防潮堤竣工記念碑

(碑文 原文)

この地もと河口の寄洲高潮の覗うところ室戸に次ぐジェーン台風の憾みは深く、市民の祈念が凝って防潮堤の竣工となる かくて海浜の護りは固く脅威はついに霧消した

昭和 31 年 9 月 堺市長 河盛安之介

いたましの霊に捧げん真なる心の薫り永遠にうけませ

★室戸台風 (その他)

●堺市 十輪院 室戸台風 風水害



六月」(1391)、右側は「為阿弥陀仏」と判読できます。
この板状塔婆は、当時流行した阿弥陀如来と地藏菩薩とを同体とする信仰を物語る資料として、府下においては数少ない南北朝時代の貴重な遺品となっています。
境内には、昭和9年(1934)の室戸台風で犠牲になった116名の生徒と2名の教員のお地蔵様が祀られています。



(碑文 原文)

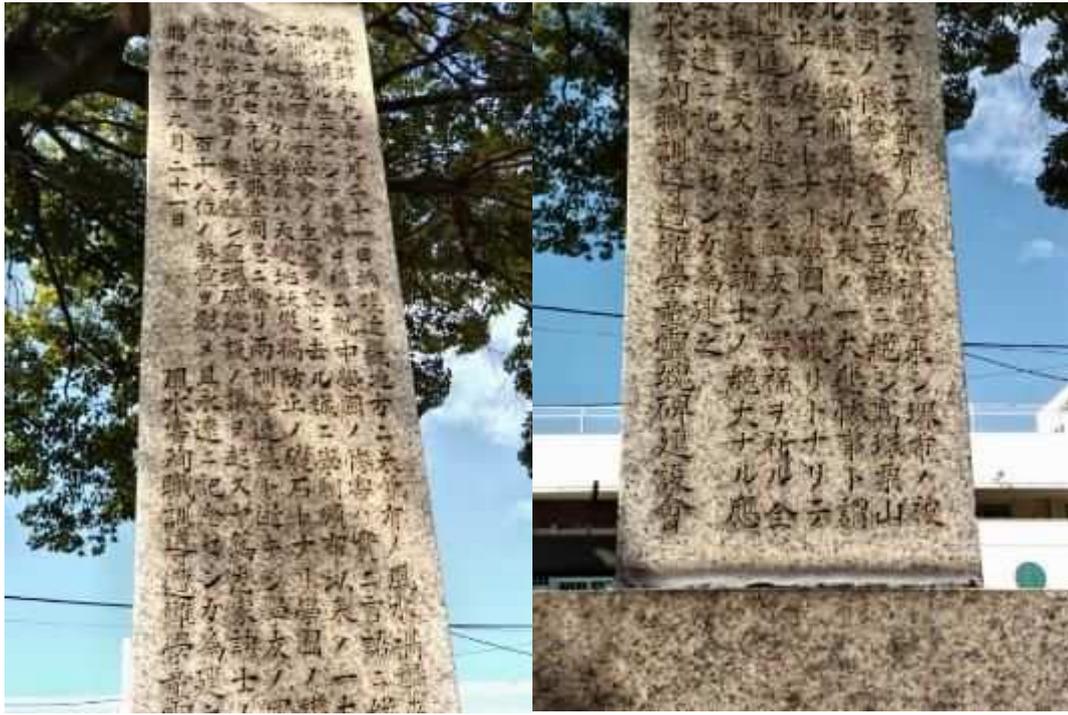
昭和9年9月廿一日風水害遭難訓導名記

室戸台風で犠牲になった116名の生徒と2名の教員のお地蔵様が祀られている。

★室戸台風 (その他)

●堺市 宝珠院 室戸台風 風水害





(碑文 原文)

風水害殉職訓導遭難学童靈魂碑

(碑文 背景)

三宝小学校を始めとして市内各小学校の被災学童と訓導の名前が刻まれている。先頭にあるのは三宝小学校で避難誘導にあたっていて殉職した栗山優訓導。栗山訓導は学童の最後尾で学童を励まし続け、ついに学童と共に高潮にさ

らわれた。ここに記されているのは、三宝小学校で高潮により 54 名の学童と 1 名の訓導が、錦小学校では校舎倒壊の下敷きになって 39 名の学童と 1 名の訓導、湊小学校でも校舎倒壊で 14 名の学童が、その他にも校舎倒壊で、少林寺小学校で 3 名、南旅籠小学校（後に英彰小学校に合併）が 2 名、錦西小学校で 1 名、同高等小学校で 1 名、錦綾小学校で 1 名と学童 116 名、訓導 2 名の犠牲者名がある。

★室戸台風（その他）

●堺市 月蔵寺 室戸台風 風水害



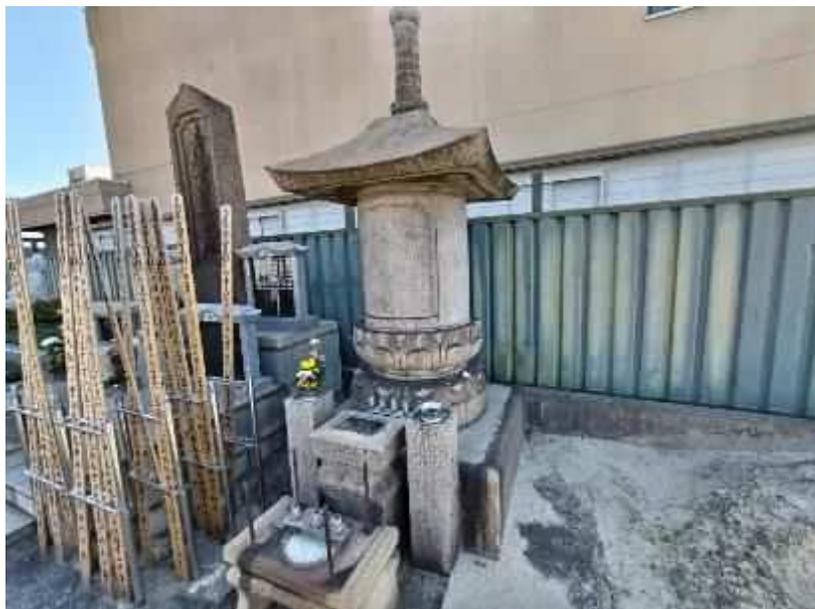
(碑文 原文)

大風水害惨死者供養塔

昭和 10 年 9 月

★室戸台風 (その他)

●堺市 経王寺 室戸台風 風水害







(碑文 背景)

室戸台風で校舎が倒壊して多数の死傷者があった錦小学校の西隣りの境内墓地にある、錦小学校の学童と訓導を慰霊する供養塔。三周忌にあたって建てられたもので、背後には今の錦小学校の校舎が見える。

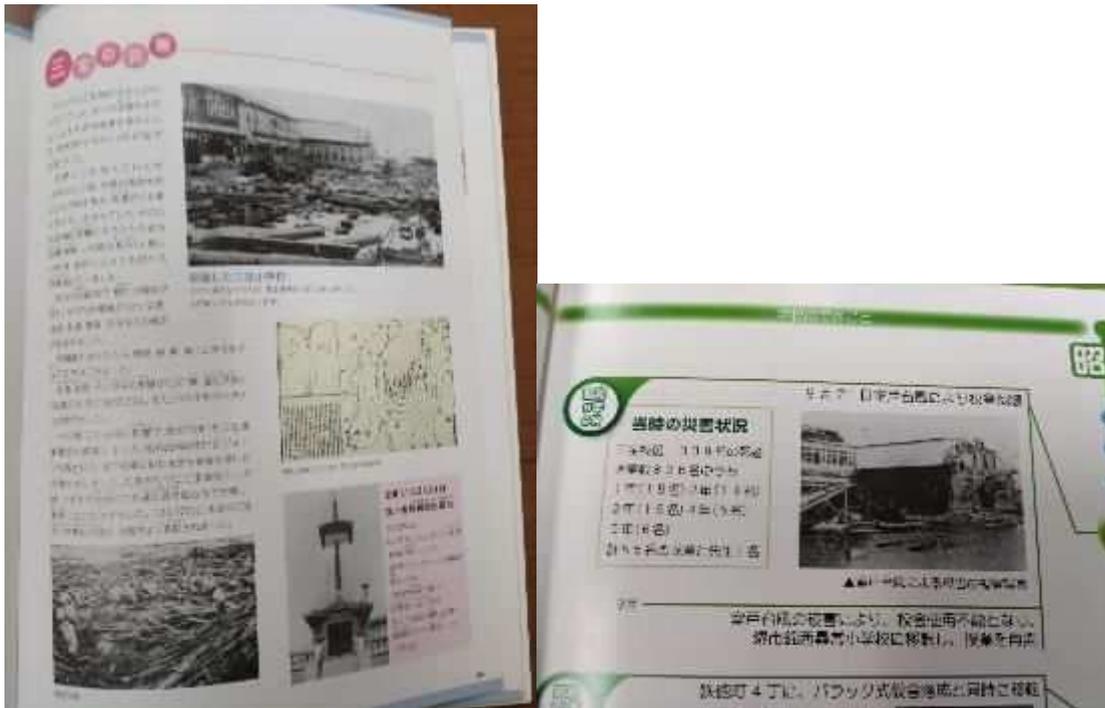
供養塔には亡くなった高塚武訓導を中心にして学童たちの俗名が刻まれ、裏面には錦小学校で死者40名、負傷者200余名もあった罹災状況と、その霊を祀るために建立された旨が記されている。

今でも9月21日には錦小学校の学童や学区の人たちがお参りされておられる。

★室戸台風（その他）

●堺市 三宝小学校 室戸台風 風水害





↑ 教頭先生からお借りした記念誌

(碑文 原文 室戸台風関連)

顕彰碑 故栗山優先生

昭和九年九月室戸台風の際児童を助けて殉職

★室戸台風 (学校内)

●堺市 三宝公園西 津波





(碑文 背景)

この附近は宝永元年（1704 年）の大和川の付替え以降、河口に堆積した土砂による附洲（つきす）を利用した新田開発が盛んにおこなわれた地域である。かつては海に近かったこの場所に祀られている「波切不動尊」は、唐から帰る弘法大師を守ったと伝えられ、海難除け、航海安全はもとより、「波切」と「難切り」を掛けて、地域の篤い信仰を集めている。傍らに立つ石碑は、寛政3年（1791 年）8 月 20 日の「海嘯（かいしょう）」（潮津波）によって命を落とした人々の 50 回忌にあたる、天保 11 年（1840 年）に建てられた供養碑。供養にあたっては、南嶋の光得法師が願主となり、来迎寺の蘭崑上人が導師をつとめたことなどが刻まれている。「堺市史」によれば、当時、中浜筋一帯まで潮が押し寄せ、壊れた船や流木が町中に流れ込むなどして、多くの人々が被災したと伝えられている。海に接して発展してきた堺の町では、海から多くの幸を得るとともに、このような苦難の歴史も忘れられることなく、語り継がれている。

★分類困難

●大阪市西区 関西風水害浸水深（現存せず） 室戸台風 風水害



↑ 両写真とも、石碑そのものが現存しないため、大阪市内で戦争と平和を考える HP から引用



(碑文 原文)

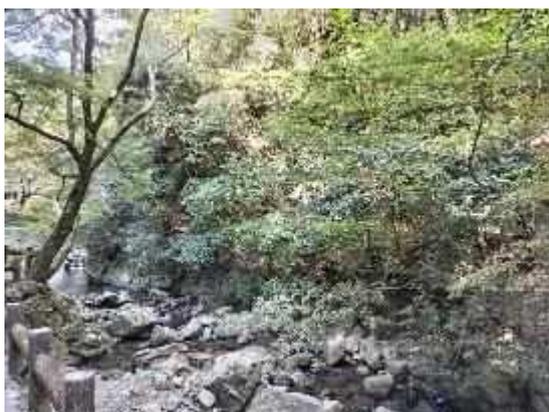
「昭和九年九月二十一日関西風水害浸水々水位標」

室戸台風の時の浸水線が 95 cmの所に横線で彫られ、「最高水位線」が記載されている。近くにお住まいの方(85歳)に聞き取りましたところ、「5歳の時にこの場所に引っ越して来ましたが、いつもこの石碑の文字が見やすくなるように磨いていました。また、水害の時は近くのお地藏様を抱きしめて避難したという伝説が残されています。

しかし、2年くらい前に突然、企業の方が地元自治会に無断で移転されてしまいました。大切な石碑が今どこにあるのか不明でとても残念なことです」とのことであった。

★室戸台風(その他)

●箕面市 箕面川 滝道① 水害



(碑文 原文)
昭和二十五年災害復旧

★分類困難

●箕面市 箕面川 滝道② 水書





(碑文 原文)

警視正箕面町警察長合田百一氏殉職之碑

昭和二十六年七月二十一日夜來の豪雨のため箕面川濁流氾濫の際當地にて防水護岸作業指揮中壮烈なる殉職を遂げらる

(説明碑 原文)

警視正箕面町警察長合田百一氏殉職之碑

昭和26年7月11日未明から近畿に襲来した集中豪雨により、箕面公園内を流れる箕面川は未曾有の増水となり濁流渦を巻いて氾濫し、低地は濁流に現れ、園内の飲食店や旅館は押し流される危険な状態になった。増水に伴い護岸警備に従事中の合田警察長はこれが救援要請を受け、部下三名を同行し箕面公園に出動した。公園内を順次下方から現況視察をかね、個別に被害調査と懇切な避難に対する助言と指導を行いつつ、降りしきる雨の中の滝道を登り、最終地点に至った時、同店に助けを求める人影を認め、ただちにこれが救助に当たるべく、合田警察長は部下の先頭に立ち、濁流と化している道路を避け、山の斜面を這うように伝いながら進んだところ、当碑より50米上手の地点に至った時、突如、足元の地面が崩れ落ち、助ける手立てもなく濁流に吞まれ尊い犠牲になった。

故合田警察長は、昭和二十三年三月、警察法の改正に伴い、箕面町警察署の初代警察長として赴任、爾來町の治安維持のため、強く責任感と実行力を持って行政、業務に精励され、その業績は高く評価され、かつ温厚堅実で、情に厚いところから町民や部下から尊敬と信頼を受けていた惜しむに足りる高潔な警察官であった。

ここに同警察長の遺徳を忍び、その功績を讃え、町民有志により同殉職の碑が建立された。

昭和六十二年九月吉日 之建

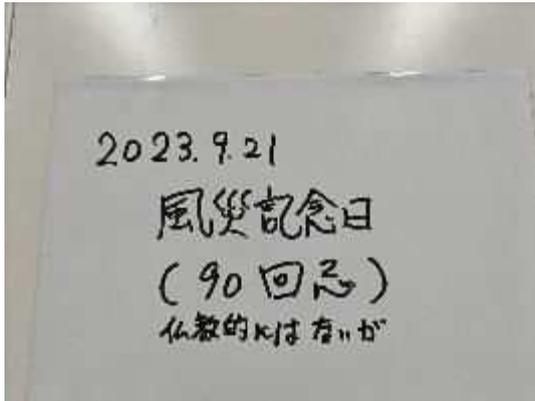
★分類困難

●吹田市 豊津第一小学校 室戸台風 風水害





↑ 校長室内の祭壇

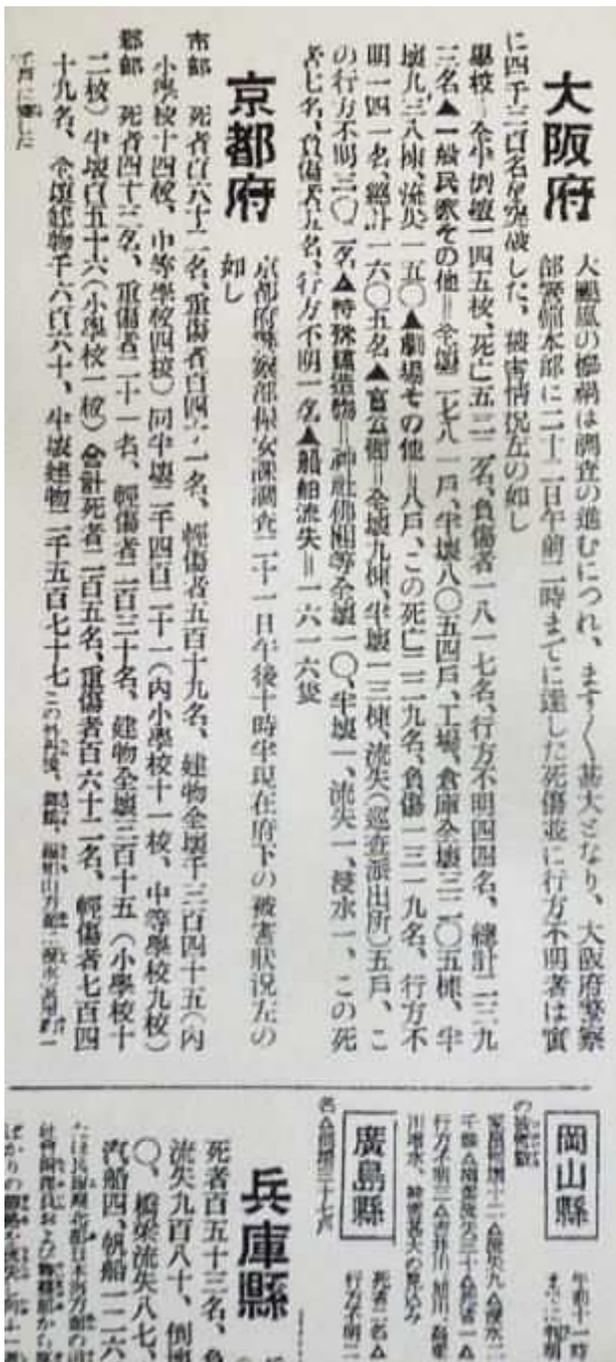


↑ 校長先生の直筆



↑ 校長室の祭壇(すべて校長先生の許可を得て撮影)





↑ 当時の朝日新聞報道
(碑文 原文)
風災記念碑

校長室にも、「風災遭難教職員児童霊」の祭壇とレリーフが継続保存されている。

また、校長先生自らが児童向けの伝承テキスト冊子「ふたりのヒロイン伝説にわこ&ふじこ」を作成されている。

(碑文 背景 朝日新聞 2018年11月28日から引用)

校舎倒壊、女性教員は児童抱え 遺品が語る美談の実像

大阪府吹田市の市立豊津第一小学校の校庭に、「風災記念碑」と刻まれた大きな石碑がある。昭和9年9月21日。室戸台風で校舎が倒壊し、女性教員2人が児童をかばって犠牲になった、と記されている。どんな先生だったのか。取材を進めるうちに、一人の先生の遺品が、郷里・山口の博物館に残されていたことが分かった。84年の歳月を経て、被災の実像がよみがえってきた。

室戸台風 1934年9月21日午前5時10分、高知・室戸で世界記録を更新する最低気圧を観測。強風と高潮で京阪神を中心に3千人以上の死者・行方不明者を出した。大阪府では約1900人が死亡し、全小中学校の教室の2割が失われ、児童生徒や教員の計約700人が犠牲となった。

「校舎も危ない」危機察知14分後に倒壊 その時生徒は 碑文によれば、風災記念碑は室戸台風で当時の豊津尋常高等小学校が被災した翌年の35年9月、村人たちによって建てられた。同校では台風で児童51人と教員2人が亡くなっていた。

大阪府に残されていた資料を調べると、殉職した教員の一人が吉岡藤子さんと分かった。27歳だった。追悼集などをまとめると、台風は授業の始まる午前8時ごろ、阪神間に上陸し、大阪は瞬間最大風速が60メートルを超え、強風で2階建ての木造校舎が倒壊。1階に吉岡さんが担任する1年生の教室があり、がれきの中から子どもの泣き声が聞こえてきた。がれきを取り除くと吉岡さんがうつぶせで絶命しているのがみつきり、その腕に抱えられて女の子5人の命が救われたとされる。

この被災について調べてきた吹田市立博物館の学芸員、五月女賢司さん(44)によれば、吉岡さんは山口県厚南村(現宇部市)の農家に生まれた。5人姉妹の長女。11歳で父を亡くし、13歳で京都の紡績工場で女工となる。17歳で岡山県にあった学費無料の女学校に入学し、教員を目指した。消灯後に真っ暗な押し入れの中で、ろうそくの明かりを頼りに勉強した。

★室戸台風(学校内)



(碑文 背景 港区 HP から引用)

港区は太平洋戦争で空襲にみまわれ、一面焼け野原になりました。また、戦後は地盤沈下のためジェーン台風などで大きな水害にもあいました。そのため災害に強いまちをつくるために、平均2メートルの地面のかさ上げ（盛土）や道路・上下水道工事など大規模な土地区画整理事業が、

45 年もの歳月をかけて行われました。これを記念して「勝利の女神像」が、池島公園に設置されています。

★分類困難

●大阪市 港区 災害モニュメントパーク 水害



(碑文 背景 港区 HP から引用)

過去の災害の記憶を風化させないようにと、平成 10 年に開設されたコミュニティ公園です。被害状況等の説明や災害時の心得を記した掲示板のほか、浸水時の水位をしめすモニュメントなどが設置されています。

★分類困難

● 柏原市及び藤井寺市 大和川付替碑 水害





(碑文 背景)

「久保田翁寿碑」。高安郡万願寺村に住んでいた久保田伝次郎が久宝寺村の高田仁兵衛と共に樋を修復した。そしてこの地域（六郷地区）の治水を行って農産物増収に貢献したことを表彰するもの。



(碑文 背景)

「深瀬郡長瀬彰碑」。上には「長瀬此利」と書いている。瀬和直という人が大和川の治水に尽力した。

(碑文 要約)

大和川と石川の合流する築留地区は大雨になれば水が溢れ、非常に危険である。明治20年10月の大雨により、決壊の危機となり、役人や村長、年番らが1500余名の役夫を指図し、死にものぐるいで決壊を防いだ。こうした災害を防ぐ為に水門の改修には煉瓦を用いることとし村会に提案し12月4日に着工、人夫の働きにより21年3月25日完了、樋門は堅牢で将来永く崩れることなく後世に伝わる事が期待される。



(碑文 原文)

明治十八年六月十七日奠水暴漲潰決茨田郡伊加賀村堤防水勢滔々迺漂没攝河諸郡其九月水土已平郡村底績建野知府事賑恤民度罹於災患者大起土功修築大和川堤防使後人免水災於未然嗚呼知府事之深仁厚澤與奠水其深漠豈始何乎哉乃記其實以為紀念碑云丹比高安大縣河内若江澁川郡長浦橋佃撰併書

明治十九年八月上浣 浦橋 佃建之 高菽彌一郎幹旋

(碑文 背景)

明治18年の「健野府知事顕彰碑」。この年におきた淀川大洪水の際に復旧に尽力して、水防に功績があったことがたたえられている。



(碑文 背景)

1906（明治 39）年の「畑中翁碑」。畑中六右衛門が大和川付替え当時、代官万年長十郎に従い功績があったとのこと。それを子孫の畑中好太郎が称えて作った。



(中甚兵衛像 背景)

工事請負人姿の甚兵衛が左手に図面を持ち、右手の指は付け替え地点を差し示していた。

通説によれば寛永6年(1639)、河内国今米村(現在の東大阪市)の庄屋川中九兵衛の三男として生まれた。父九兵衛は悪川である大和川の付け替えを何度も幕府に嘆願したが、志を果たせぬまま亡くなる。九兵衛の遺志を継いだ甚兵衛は責任の一切を引き受け、直接に江戸出訴を試みるなど以後40余年にわたって訴願活動を続けた。一方、大和川の付け替え予定地にあたる村々では、新しい川によって先祖伝来の家や田畑がつぶされるため、激しい反対運動や嘆願活動が起こり事業はなかなか進展しなかった。

甚兵衛を支持したのは大坂の代官万年長十郎である。万年は堤奉行も兼ね、河村瑞賢の治水工事に随行した経験もあって、甚兵衛の資料をつぶさに検討した。その結果大いに共鳴し、率先して幕府への陳情を行った。

元禄16年(1703)、幕府は大和川付け替えを正式に決定し、翌年の2月27日、工事は川下にあたる堺の海側から開始される。

河州志紀郡柏原村と船橋村の間である石川合流点付近から堺浦まで西へ真直ぐ流す、延長131町(約14km)・幅100間(約180m)の川筋を、盛り土や高台を切り開く工法で工事は進んだ。

工事区間は、幕府が費用を負担する「公儀普請」と「御手伝普請」とに分けて進められ、幕府側の担当者は大目付の大久保甚兵衛、代官の万年長十郎らで、甚兵衛も「普請御用」として現場に立った。

幕府とそれぞれの藩が競うように工事区間を分担遂行した結果、当初3年と見込まれた工事はわずか3ヶ月足らずという早さで完成した。

この付け替えによって、中河内の村民は水害を免れ、鴻池新田をはじめ1,060町歩(約1,050ha)の新田が続々と開発された。農業が盛んになり中河内は全国一の綿作地帯として大発展を遂げる。

一方、付け替え後の大和川の南の村々では降雨ごとに新堤防のため悪水を排水できず、災害から逃れることはできなかった。

甚兵衛は、付け替え完成の翌年仏門に入り「乗久」と名乗り、ひたすら信仰に生きて、享保 15 年（1730）9 月、91 歳の天寿を全うする。



（碑文 背景）

「大和川付替 250 年記念碑」

1954（昭和 29）年に作られた。





(碑文 背景)

大和川付け替え完成後、旧大和川跡の新田に農業用水を供給するため取水樋門が設けられ、旧河道には長瀬川と玉串川という水路が造られた。人工の長瀬川は、今では国土交通省選定の「日本の疏水百選」の一つになっている。

また、治水公園の裏手の築留土地改良区には、明治40年(1907)に改造されたアーチ形でレンガの「築留二番樋」があり、大和川の水が今も勢いよく流れ込んでいる。



(碑文 全背景 大和川河川事務所 HP から引用)

昔の大和川は、亀の瀬の下流の「築留」から北へ向かって流れ淀川へそそいでいました。

しかし、河内平野は低湿地であったため、たびたび洪水を起こしていました。そこで、宝永元年（1704）に付替え工事が行われ、築留から西向きに流れ、堺の方へ流れる新しい大和川（現在の流路）が開通しました。

現在、この築留には大和川治水公園として、付替えの功労者である中甚兵衛の銅像や付替え碑などが整備されています。

★大和川水害

●大阪市中央区 梅檀木橋 水害





(碑文 背景 大阪市 HP から引用)

江戸時代、中之島には諸藩の蔵屋敷が建てられ、船場との連絡のために土佐掘川には多くの橋が架けられていた。梅檀木橋もそうした橋の一つであった。橋名の由来は『摂津名所図会』ではこの橋筋に梅檀ノ木の太木があったためとしているが、詳らかではない。

明治になっても木橋のままであった梅檀木橋は明治 18 年の大洪水で流失した。再び架けられたのは大正 3 年のこととされる。これは明治 37 年に、大阪府立図書館が建てられ、明治末には大阪市庁舎の建設が決定されるなど、橋が再び必要となっていたためであろう。

その後、昭和 10 年に架け替えられた橋は桁の高さが一定のシンプルな美しさを強調した設計であったが、当時の設計者はこれを理想としていたようである。昭和 60 年 9 月、新しい橋に架け替えられたが、旧橋のイメージを大切にしながら橋面などは府立図書館や中央公会堂など、背景にある歴史的建築物との調和を考えてデザインされた。

また、センダンノキをモチーフにした欄間パネルが取付けられている。
由来碑と大正時代の親柱は橋梁の橋詰に設置され、橋の歴史が一目でわかるようになっている。

★淀川水害（明治18年）



(碑文 背景 大阪市 HP から引用)

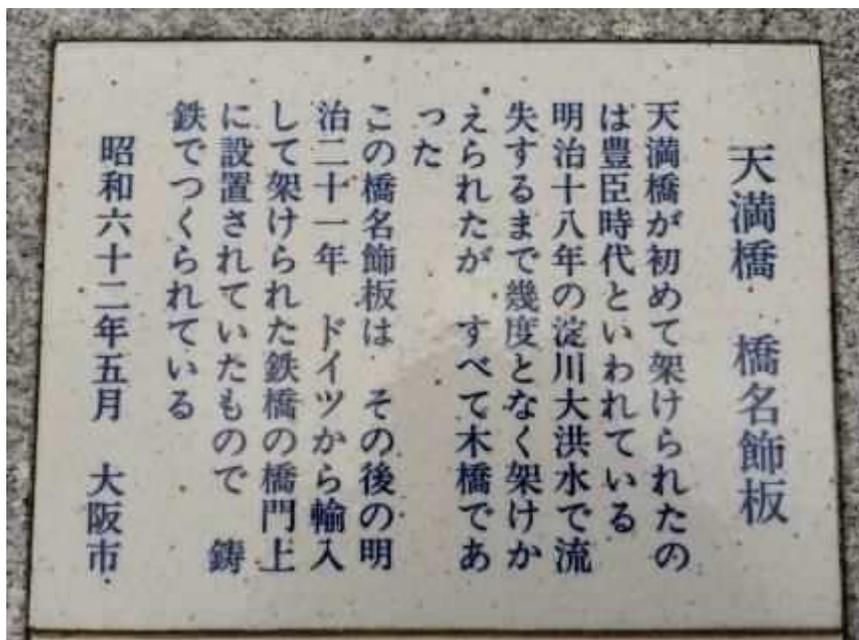
江戸時代、大阪城京橋口から、幕府の役人宅や諸藩の蔵屋敷があった対岸の川崎（北区天満一丁目の一部）へは「川崎渡」が通っていた。

明治 10 年になってこの地に橋が架けられたが、私設の橋で通行料一人三厘を徴収したことによって、「ぜにとり橋」と呼ばれたらしい。この橋も明治 18 年 7 月初めの大洪水によって下流の橋ともども流失し、以降再建されることはなかった。

現在の川崎橋は、中之島公園と千里の万博記念公園を結ぶ大規模自転車道の一環として昭和 53 年に架設された。形式は高い塔から多くのケーブルを出し、桁を吊った斜張橋というタイプで、技術的にすぐれ、景観を重要視した橋として、土木学会の賞を受けている。

★淀川水害（明治 18 年）

●大阪市 北区 天満橋 水害



(碑文 背景 大阪市 HP から引用)

天満橋・天神橋・難波橋は江戸時代以来、大坂の町にとって最も重要で、最も親しまれてきた橋である。当時としては最大級の橋で、この三橋は浪華の三大橋と呼ばれた。江戸時代には、ともに公儀橋に指定され、幕府の直轄管理となっていた。大坂の市街地を南北に結ぶ三大橋は市民の生活にも密接に関わる橋となり、都市発展に重要な役割をはたした。東西の町奉行所が、天満橋の南側にあり（のち西町奉行所は本町橋の東北詰へ移転）、谷町筋から東側には様々な役所があった。橋の北側には役所の倉庫や町与力の屋敷があり、天満橋はこれらの役人の通勤経

路や役所間の連絡にも利用されたと考えられ、公の性格が非常に強い橋であったと言えよう。

天満橋・天神橋は、明治18年7月初めの大洪水によって両橋とも流失し、その復旧事業として、両橋ともに鉄橋に架け替えられた。この鉄橋の主要部材は天神橋と同じく、全てドイツ製であったが、鉄製の高欄、照明柱、橋名額は両橋とも国産品が用いられた。橋名額は現在も北詰の公園内に保存されている。

現在の天満橋は、昭和10年に重厚なゲルバー式鋼桁橋に架け替えられたものである。この桁の形状に対して当時の担当者が「のびのびとした、鳥が翼を広げたような形」と表現したように、景観上バランスのよい桁橋である。

戦後、自動車交通の発達により天満橋は、交通上のボトルネックになり、昭和45年に高架橋が建設された。在来の天満橋の上に重ねる型式とし、設計荷重としては旧市電の軌道敷部の荷重と高架橋のそれと置き換えるように考えられた。さらに、平成元年に旧橋部が改装された。

★淀川水害（明治18年）

●大阪市 北区 将棊島粗朶水制跡 水害





(碑文 要約)

将基島は、淀川の水が寝屋川・鯉江川に逆流して水害を引き起こすのを防ぐために、三つの河川の合流点の網島から天満橋を越えて236間（約430m）余り下流まで築かれた隔流堤で、幅7間（約13m）あった。

淀川治水のため、明治6年（1873年）に来日したオランダ人技師デ・レーケ、エッセル、ティッセンの3人は、その翌年、将基島地先にオランダ式の粗朶沈床による水制工を実施した。これは木の枝を束ね、組み合わせたものに石を詰め、河岸から河の中央に向かって設置された突起物で、水の勢いを弱め、護岸に効果があった。この工法はケレップ水制とも呼ばれ、現在でも城北公園北側の淀川左岸にその名残を留める。デ・レーケは来日してから29年間、大阪にとどまり、淀川の治水と大阪湾の建設に尽力した。

★淀川水害（その他）

●大阪市 北区～中央区 天神橋 水害





↑ 以上 右岸側



↑ 以上 左岸側

(碑文 背景 大阪市 HP から引用)

天神橋は文禄3年(1594)に架けられたと伝えられ、当初は橋の名はな
く新橋と呼ばれていたが、天満天神社が管理することからしだいに天神
橋と呼ばれるようになったという。天神橋の架設は上町台地と大坂の北
部方面を結ぶという意味で大変重要であり、後に天満組となる現在の北
区の一部の発展を見れば、橋が地域を結びつける上でいかに重要な役割
を果たしているかが確認できる。

明治18年7月の大洪水により淀川筋の橋は次々と流されたが、その直
後に鉄橋化されることになり、天神橋には、ドイツからの輸入品で長大
スパン66mのボーストリングトラスが用いられた。

現在の天神橋は第1次都市計画事業によって完成したもので、低い軽快
なアーチが中之島の剣先の風景によくマッチし、水都大阪の代表的な景
観を形造っている。主要部の形式は3連の軽快な鋼2ヒンジアーチで、
両端には重厚なコンクリートのアーチを置き、全体のデザインを引き締
めている。

昭和62年、剣先側にらせん形のスロープが設けられると同時に美装化
がなされ、遣唐使船の陶板ブロックや天満宮所蔵の天神祭絵巻を模写し
た絵陶板が飾られている。

★淀川水害（明治18年）

●大阪市 北区 渡辺橋・肥後橋 水害





(碑文 背景 大阪市 HP から引用)

渡辺橋・肥後橋は江戸期、明治期を通じて大名蔵屋敷や米市場とともに中之島や堂島地区の繁栄を支えてきた。

渡辺橋の名前の由来は、現在の天満・天神橋付近の上町台地北端部あたりの渡辺の津と呼ばれていた地名のようである。

肥後橋は、橋の北詰の中之島に肥後・熊本藩の蔵屋敷があり、明暦3年（1657）の「新板大坂之図」には、肥後殿橋と書かれており、古くはこう呼ばれたこともあったらしい。

明治18年の大洪水によってこれまでの木橋が流され、明治21年に両橋ともイギリスから輸入した鉄橋に架け替えられた。

その後、渡辺橋・肥後橋は市電の第2期線建設（明治41年）にともなって架け替えられ、明治以降4代目の橋は第一次都市計画事業（昭和初期）によって架けられた優美なアーチ橋であった。現在の橋は昭和41年に高潮対策事業と地下鉄建設に合わせて架け替えられた。

この碑の隣にある親柱は、昭和41年に架け替えられた時のものである。

★淀川水害（明治18年）

●大阪市 西区 木津川橋 水害



(碑文 背景 大阪市 HP から引用)

木津川橋は川口と江之子島を結ぶ橋として、慶応4年(1868)に架けられたと考えられる。新政府は同年5月の開港にそなえて、川口運上所(税関)を開設し、居留地の建設を促進した。これにともなって新しい橋も架設されたようである。その後、明治9年9月に橋脚、高欄を鉄製とした橋に変わり、橋面の中央部を車馬道として区割されていたが、この橋が歩道と車道を分離した最初の例であった。明治18年の洪水で流出した。

その後、市電の第三期線の事業によって、大正2年6月に立派なアーチ橋に架け替えられた。この橋は意匠面でも多大な配慮が払われた。同じ路線の本町橋と同じデザインとされ、橋脚は花崗岩製で側面にギリシャ建築に見られる石柱を模した装飾が施されていた。現在の橋は、昭和41年、高潮対策事業の一環として架け替えられたものである。

★淀川水害(明治18年)

●大阪市 西区 安治川橋 水害



(碑文 背景 大阪市 HP から引用)

江戸時代初期までの淀川河口部には九条島が流れを遮る位置にあり、洪水がたびたび起こり、また土砂堆積により舟運にも不便をきたすことが多かった。このため貞享元年（1684）幕府の命により、河村瑞賢が水路を開削し、安治川と名付けられた。その後、周辺に富島や古川の新地開発が進められ、元禄11年（1698）に完成した。安治川橋はこの新地の開発に伴い初めて架設された。

江戸時代末期、幕府は開国に備え、この地を外国人居留地として、準備を進め、明治新政府によって明治元年（1868）大阪開港とともに外国

人に競売された。居留地には、洋館や舗装道路が造られ大阪の文明開化の拠点となった。

明治6年（1873）居留地の交通の便を図るため、新しく安治川橋が架けられた。

この橋の中央二径間は西欧から輸入された鉄橋で、高いマストの船が航行する時には、橋桁が旋回する可動橋であった。当時の人々はこの旋回する様を見て「磁石橋」と呼び大阪名物の一つとなった。

明治18年（1885）大阪を襲った大洪水は多くの大川の橋を流し流木となって安治川橋に押し寄せた。橋はこの流木や洪水に抵抗し、よく耐えたが、市内に洪水の恐れが生じたため、やむなく工兵隊により爆破撤去された。

★淀川水害（明治18年）

●大阪市 西区 松島橋 水害





(碑文 背景 大阪市 HP から引用)

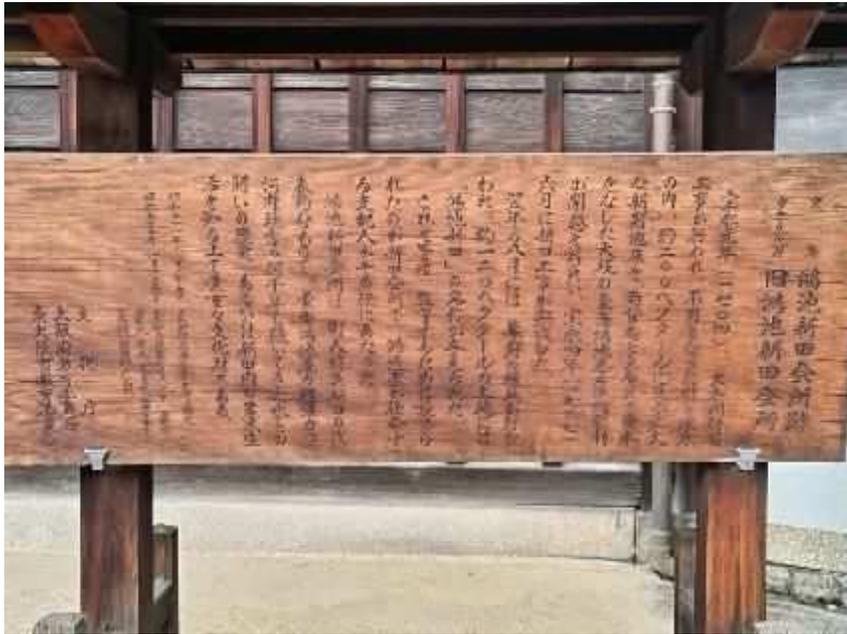
旧松島（西区本田一丁目）辺りは、尻無川の分流点にあたり、江戸時代には寺島と呼ばれていた。川沿いには造船所が多く、時々進水の祝いがあって賑やかであったという。寺島の北端には松の古木があつて松の鼻とも呼ばれ、この風景を賞するため遊客を乗せた船が集まった。

明治の初めに川口に居留地が造られたこともあつて、松島には市中の遊所を集めて、大阪最大の遊所が開かれた。この開発を促進するため明治2年に松島橋が架けられた。この橋は明治18年の大洪水によって流されたため、直後に鉄杭をもった木桁橋が架けられた。

松島橋が現在のような近代橋になったのは、戦前の都市計画事業である。3径間のゲルバー式の鋼桁橋という当時の一般的な形式が採用されている。

★淀川水害（明治18年）

●東大阪市 鴻池新田 朝日社 壘田紀功碑 水害





↑立ち入り禁止のため「河内彷徨～郷土を見にゆく～」から引用
(碑文 背景)

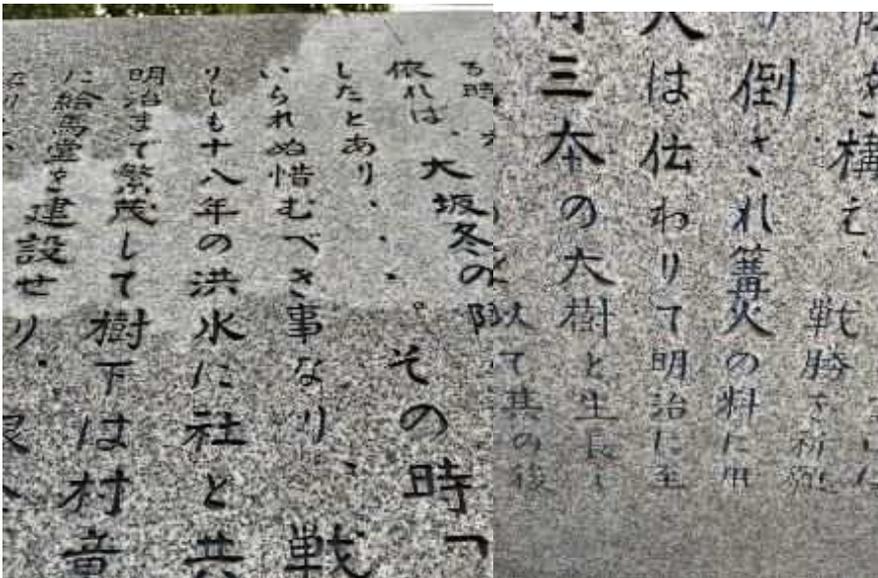
明治十八年（1885）に建てられたこの石碑には、河内平野の地形と大和川付替え、その後の鴻池新田開発の経緯が刻まれ、新田所有者の鴻池善右衛門宗利の功績が称えられている。裏面には紀功碑建立と同年に起こった「淀川大洪水」について記されている。明治十八年六月十八日、現在の枚方市で淀川の堤防が決壊、鴻池新田にも氾濫した水が及び、人々は日下の大龍寺等に避難し、七月十五日になり、避難者はようやく各家に帰宅したが、その数は650人に上った。それで、当時の鴻池家当主、善次郎幸方は一人に五合の米を与え、その後も一ヶ月にわたって千余円の金銭を拠出し、救済に当たった。

（碑文裏 要約）

去る夏の長雨、茨田郡伊加賀村の堤を壊す。実に六月十八日のことである。北河内三郡は、全て壊滅しそうであった。この時に当たり、新田諸村の民は、励んで土嚢を築き、そして害を免れた。しかし長雨は益々は甚だしくなり、三十日に堤は再び大きく壊れ、諸村は遂に全て水没した。そこでそこで小作人を日下の大龍寺に避難させた。人口六百五十。七月十五日に初めて家に帰った。その寺にいる間、田主は毎日米を一人あたり五合与えた。家に帰り、なお米を与えること三十日。また金千余円を出し、彼らを救う。家数百余戸を数える。概ね享和二年の例に沿う。この天変が起こると、大水が広がること五里四方、水没をする民は数万。それなのに新田諸村が難苦を免れたのは、どうしてまた、田主の先祖の余沢でないと言えるのか、いや、余沢に違いない。どうしてこれを公表せずにいられよう。そこで追録し、あわせ以てこれを伝える。

★淀川水害（明治18年）

●大阪市 城東区 若宮八幡大神宮 由緒之碑 水害





(碑文 要約)

若宮八幡大神宮は、当地域の土地柄が寝屋川(古くは大和川)、鯉江川の二川、また、古街道東西に貫通し低地であり地味砂土に富み、農耕に適し水運の便多く浪速に於ける庶民生業業の中心地として繁栄して参りました。その関係上浪速に都を定められ御製「高殿にのぼりてみれば煙たつ民のかまどはにぎわひにけり」に示された。仁徳天皇の御遺徳をしのび、村民こぞって神祀を勧請御創建せしに始まると伝えられて居ります。「摂津名所図会」によれば、蒲生とは、名産に蒲穂あり、色美しく尺長く、良質のものが出来たと記されて居ります。蒲生の地名もここから出たものでしょう。神伝によれば人皇 103 代履土御門天皇の御宇、文明 14 年 8 月(1482)畠山政長、畠山義就を河内守口城に攻めたる時、村民の崇敬篤く、神域広大なりし当地の神祀に、武運成就を祈願したと伝えられ、「難波戦記」に依れば、大阪冬の陣(鳴野、京橋口の戦い)において、佐竹義宣、当境内に本陣を構え、戦勝を祈願したとあり。その時、「心なき軍兵の為、神木なる楠の大樹が地上より伐り倒され、篝火の料に用いられ惜しむべき事なり。戦後、佐竹家より矢を献納して贖罪の祈願をなす。其の矢は伝わりて明治に至りしも、十八年の洪水に社とともに流失せり。楠の根幹は其の後芽を吹き出し三百年間、三本の大樹と生長し、明治まで繁茂して樹下は、村童の遊び場なりしが二十年頃樹勞頑に衰え三本共終に枯死せるを以って其の

後に絵馬堂を建設せり。根幹は其の絵馬堂一面の大ききなりと云えば戦時伐木せし楠の如何に大なるものなりしかと知るべし。従って樹齡も他の事例に推算せば、一千数百年前のものなることを認むべし」昭和10年の記録以上の如く蒲生郷一帯の守護神として、(勝運、商売繁昌、五穀豊穰、安産、家内安全、厄除を祈願し)、世に蒲生の西向き八幡さまと絶大なる信仰をあつめて参りましたことを散見されております。昭和十年社殿修営の大事業、並びに昭和45年御鎮1500年記念集殿御造営事業を竣工せしにより、佐竹義宣の本陣録を表記として、碑を立つるものであります。

改修 平成二十七年六月吉日 若宮八幡大神宮前宮司 森弥生

★淀川水害(明治18年)

● 四条畷市 四条畷神社 大橋房太郎君紀功碑・治水翁碑 水害







(碑文 背景 淀川河川事務所 HP から引用)

明治 18 年 (1885 年) の洪水による大きな被害で、淀川の改修への要望は高まりましたが、工事着手までには幾重もの困難がありました。陳情活動など淀川改修に生涯を捧げた大橋房太郎が中心となって実現への努力を重ね、ようやく明治 27 年 (1894 年) に日本人技師で第 4 区 (大阪) 土木監督署長の沖野忠雄による「淀川高水防御工事計画」が内務大臣に提出されます。

さらに、明治 29 年 (1896 年) に河川法が制定され、わが国最初の本格的な治水工事が開始されることになりました。これが 100 年前に完成した淀川改良工事です。この工事は、上流から下流まで流域全体を見据えたスケールの大きい斬新な考え方に基づいたもので、その範囲は琵琶湖から大阪湾までにおよびました。新淀川の開削のほか、毛馬閘門と毛馬洗堰の建設、瀬田川洗堰の建設、宇治川の付け替えなど、明治 43 年 (1910 年) までの約 14 年にもわたる歳月をかけて完成しました。淀川改良工事は、当時の淀川の治水安全度を飛躍的に向上させ、地域の発展に寄与するとともに、その後の日本全国の河川における治水対策にも大きな影響を与えました。

★淀川水害 (明治 18 年)

●大阪市 城東区 野江水流地藏尊 水害





(碑文 背景 HP から引用)

大阪北部一帯を襲った、未曾有の大洪水時（明治 18 年）に、当地に流れ着いたとの謂れがあり、城東区民にとって忘れてはならない出来事の証人として、守り伝えなければならないお地蔵さんとされています。地元町会に守られ、地蔵盆などの行事は毎年欠かさず行われています。

★淀川水害（明治 18 年）

●大阪府 守口市 守居神社 水害



(碑文 背景『守居神社御由緒』から一部引用)

天文十三年（一五四四年）に林海の記した当社の由来記、又寶曆十三年（一七六三年）圓龍の写書等によると、天文十三年七月九日前代未聞の大洪水があり大門鳥居流失し社殿失損寶殿流損したので地方に寄進を仰いで辛うじて其の社

域を再興した。この時まで王城守護として北東向きであった神殿を南向に、寶殿を改造し營構したが昔日の結構には遥か及ばなかったという記録がみえる。昭和九年九月二十一日の室戸台風で社域の惨状恐懼の至りと成ったので氏子崇敬者の寄進を仰いで境内地を拡張し現今の社殿に造営營繕が進められ昭和十六年十月総工事竣成し遷座奉祝祭が盛大に執り行われた。

★淀川水害（明治 18 年）

●枚方市 小野平右衛門家 水害



(碑文 要約)

近年の主屋根改修において、明治18年6月の淀川洪水時による軒先浸水時の鮎がミイラ化して屋根裏から発見された。

★淀川水害（明治18年）

●大阪市 城東区 南中浜子安地藏尊 水害



(碑文 要約)

明治 18 年大阪東部一帯を襲った未曾有の大洪水で、当時大阪城の一角にあった此お地藏様が平野川に流れつかれた。

★淀川水害 (明治 18 年)

●大阪市 城東区 正圓寺 寺子屋中濱菁莪塾 水害



(碑文 要約)

明治 18 年淀川の堤防決壊により中濱の學舎も大破す

★淀川水害 (明治 18 年)

●吹田市 岸部第一小学校 室戸台風 風水害



(碑文 背景)

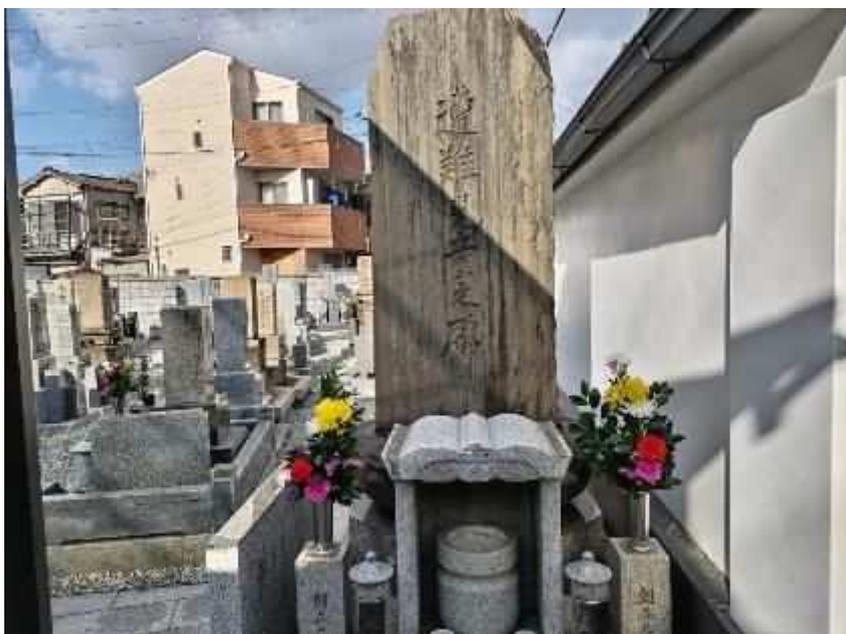
風災記念塔

室戸台風により2階建本館12教室倒壊、圧死者28名、重傷者57名（内教員2名）、軽傷者103名（内教員4名）

その後木造平屋12教室（133.25坪）が復興し、仮校舎より移転した

★室戸台風（学校内）

●大阪市 西淀川区 稗島尋常小学校 室戸台風 風水害



↑稗島墓地内

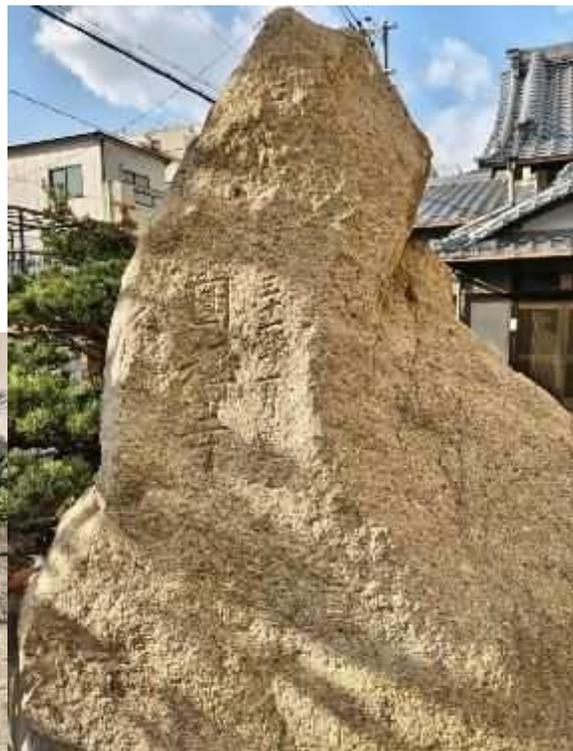


(碑文 背景)
遭難児童の碑

室戸台風で校舎倒壊 児童・教職員 13 名が殉職

★室戸台風 (学校内)

●大阪市 淀川区 圓稱寺 水害



(碑文 背景)

淀川改修中津村旧址記念碑

淀川は、昔から大洪水が多いことで有名で、明治時代には 10 回もの大洪水が
起こり、多くの死者や行方不明者がでた。たまりかねた政府は外国から土木技

師を招いて工事にかかったが、それでも大洪水を防げなかった。そこで大阪市は、思いきって沖野忠雄工学博士を起用し、大規模な工事を伴う画期的な計画をたて、周りの誹謗や反対にもかかわらず、大変な苦勞の末、明治 42 年にこの難工事を完成させた。

★淀川水害（その他）

●大阪市 淀川区 水防碑 水害



↑ 十三公園内

(碑文 全文)

淀川区は、これまで幾多の水害に見舞われてきたが、中でも明治29年1896年の油津村大字新在家の神崎川堤防決壊は区内全域に大きな災害をもたらし当地(旧称堀)の旧家に救助所が設置されたという

近年河川改修が進みこうした大水害はほとんど見られなくなったが、なお、一層水防意識の高揚をはかり、水害防除と河川愛護を念頭してこの碑を建立する

昭和51年秋 大阪市

★水防碑(大阪市)

●大阪市 淀川区 十三大橋 水害



(碑文 背景 大阪市 HP から引用)

十三という地名は、旧成小路村（現在の淀川区新北野付近で）の字名の一つで、十三の名の起こりは条里制の十三条に由来するという説もあるが、淀川の渡しのうち、上から数えて13番目であったこととする説が有力で、江戸時代以前から”十三渡”があったとされる。

この地に初めて橋が架けられたのは明治11年のことである。江戸時代には淀川や中津川には1本の橋も架けられていなかったが、明治になって架橋の運動が起こり、この気運の中で成小路村村民13人の共同経営

の橋として、10年9月に架橋の許可を得、11年3月起工、同年7月に竣工した。私設橋であったため有料であった。

この付近で新淀川の開削工事が始まったのは明治32年、これにともない明治42年5月に鉄橋が完成した。

★淀川水害（明治18年）

●大阪市 北区 鶴満寺 室戸台風 風水害





(碑文 背景)

風害慰霊碑

室戸台風で、倒壊した校舎の下敷きになり亡くなった大阪市立豊崎第四小（現豊崎東小）児童 19 人の冥福を祈り建立された。

大阪市内にある 240 校の学校の古い木造校舎 180 校がすべて被害を受けた。暴風警報で学校が休校になったのも室戸台風以降である。なお、本堂の高さは淀川に近く洪水から守るために、石垣でかさ上げされている。

★室戸台風（その他）

●大阪市 北区 富島神社 水害



(碑文 背景)

明治天皇御製

明治十八年の大洪水で淀川大改修となり三十一年に町民の立退きを命ぜられ各地に転居した。それから二十余年たって今昔の情禁じ難く旧十三町民親睦を図るため思昔会を結成してここに記念碑を建てる

十三思昔會

★淀川水害 (明治 18 年)

●大阪市 都島区 毛馬排水機場 淀川改修紀功碑 水害





↑ 大阪城 残念石

(碑文 背景 大阪市 HP から引用)

淀川の洪水は古代からたびたびくり返され、そのつど大きな被害をうけていた。なかでも明治 18 年の氾濫は、ようやく近代的発展をとげようとする大阪とその周辺に、甚大な被害をもたらした。そのため淀川改修工事が急がれ、明治 29 年測量に着手、途中、日露戦争をはさみながらの困難な事業も同 42 年完了。

明治 29 年より始められた淀川改修工事は、上流部では瀬田川の浚渫（しゅんせつ）と南郷洗堰の設置による琵琶湖水位の安定化、中流域では河川の屈曲部や川幅の改良、下流部では毛馬から下流を、川幅を広げ直線的に大阪湾に注ぐという、大規模かつ横断的なものであった。工事は同 42 年に概ね終了し、これを記念して毛馬閘門と洗堰の間に淀川改修紀功碑が建設された。碑は高さ 10.6m、下半部は洋風建築の細部意匠を忠実に表現し、上半はゆるやかに上方を細めた円柱を立てた堂々たるものである。大阪の近代化に重要な位置を占める淀川改修を象徴的に示す記念碑としても貴重である。平成 20 年、「淀川旧分流施設」として国の重要文化財指定をうけたことにより、大阪市の指定については解除された。

★淀川水害（明治 18 年）

●大阪市 都島区 毛馬排水機場 淀川左岸水害予防組合設立記念碑 水害



(碑文 背景 関西の公共事業土木遺産探訪 HP から引用)

大正 6(1917)年に大塚で堤防が切れる惨事があり、これを契機に、枚方切れで被害を受けた地域を対象に「淀川左岸水害予防組合」が設立された。(大正 8 年 11 月)。

本組合設立以前も当地には水害予防組合がいくつかあったが、これらを解体して広域的な組合に改変・統合した。堤防で囲まれた低湿地では地域間の利害が対立することが多かった。本組合の設立を記録した文献には、「利害関係を異にせる地域等ありて、衆議容易に決せざりし」ところ、当時の府知事の企図にもとづき 8 年 4 月から「漸くにして其設立に着手するに至れり」と簡単に述べられている。しかし、広域的な組合の結成は恐らく容易ではなかった。そして、水防長の下に水防部長 18 名、組頭 145 名、小頭 246 名、水防手 2,460 名が初代の水防団員として任命されて、実質的な活動を開始した。

水害予防組合とは、明治 23 年の「水利組合条例」に基づいて設立される公共

組合で、水害を受ける区域に土地・家屋・工作物を所有する者を組合員とする。組合は、組合員から選挙によって選ばれた議員により運営され、組合員から徴する組合費を主たる財源として水害の防御活動を行う。よって、組合とは、江戸時代から存在した村落等を中心とする共同体を法制化したものである。水利組合条例の下にあったため、水防だけでなく利水に係る活動も行った。戦時中の河川の荒廃などにより、戦後は各地で水害が相次いだ。水防組織の整備と水防活動の強化を図るため、昭和 24(1949)年に水防法(昭和 24 年法律第 193 号)が制定された。さらに、33 年の同法の改正(昭和 33 年法律第 8 号)で、水防に関する第一義的責任が市町村にあることを明確にし、A 町の堤防が破堤すればその下流にある B 村まで被害が及ぶ場合など単独の市町村で水防責任を果たすことが困難または不適当な場合は関係する市町村が「水防事務組合」を設立しなければならないとされた。水防事務組合とは、地方自治法(昭和 22 年法律第 67 号)第 284 条に定める「一部事務組合」のひとつで、地方公共団体がその事務の一部(ここでは水防)を共同して処理するために設ける特別地方公共団体である。一部事務組合が設立されると、当該事務は関係地方公共団体の権能から除外され一部事務組合に移管される。

水防法の改正により、淀川左岸水害予防組合は「淀川左岸水防事務組合」に改組された(33 年 12 月)。新たな組合は、構成する市町村の議会の議員から選任された者がその議員となり、市町村の分担金等を財源として活動する。ここにおいて、水防活動が江戸時代から続く受益住民の共助としての性格から市町村が行う公助へと転換した。

的確な水防活動を行うためには、河川管理者が有する水位等の情報を活用する必要がある。現在の淀川左岸における水防活動の流れとしては、河川管理者である淀川河川事務所及び枚方土木事務所から、水防管理者である水防事務組合を通じて水防団の待機・準備・出動等の水防活動の必要に関する情報が伝えられる。水防団は、河川管理業務のうち、水防に係る現地実務を担うという位置づけ。水防団の定員は、防潮筋を加えて 4,959 人。団員は非常勤の特別職地方公務員という身分で、平時はそれぞれの業務に従事し、非常時には水防団長の指示により参集して水防活動にあたる。水防活動といえば堤防に土嚢を積みシートを張るイメージがあるが、災害時における避難誘導・救助活動等、被害を最小化する活動の一切が含まれる。これは、現在の淀川左岸水害予防組合の団体を結成したのを記念して作られた石碑で、碑文には大正 14 年 10 月 1 日と刻まれている。

★淀川水害(その他)

●大阪市 都島区 毛馬排水機場 毛馬北向地藏 水害





(碑文 要約)

自然石の前面に彫刻されたものが両サイドに安置され、真ん中に祀られているお地蔵さんは、角の取れた自然石そのものようである。

一体は、明治の終わりごろに旧毛馬洗堰新設工事のとき、浚渫により、大川から発見された。一体は、大正9年頃、内務省機械工作所が旧光龍寺（十三付近といわれている）の整地のときに掘り出された。一体は、昭和6年頃、土佐堀

の旧内務省大阪土木出張所（現建設省近畿地方建設局）敷地内にあったものを移転し、この地に安置された。このお地蔵さんは、そのむかし、聖徳太子が仏教を広めるために大阪市天王寺区に今もその名が残る六万體町で六万體のお地蔵さんをつくらせ、全国にそれを安置させたそのうちの三体であり、歴史的にも古く、淀川を洪水から守っていただくなど、靈驗新たかなお地蔵さんで、遠くからの参拝者も多く、毎年8月23日の地蔵盆には御詠歌で供養している。

★淀川水害（その他）

●大阪市 都島区 旧毛馬基標 地震



(碑文 要約)

南海地震や地盤沈下などにより、高さに変動が生じている。

以下、建設省近畿地方建設局：淀川百年史から引用

毛馬基標には写真のように「BMOP. 15.50」、「4.697M」と刻字されているが、BM（ベンチマーク）15.5尺、4.697メートルを表

している。標高の変動や毛馬閘門の改築工事のため基標としての役割がおわり1960年代から現位置で記念として保存されている。またこの位置は国土地理院の基準水準点111号ともされていたが現在は地図にも掲載されていなく成果使用不可となっている。

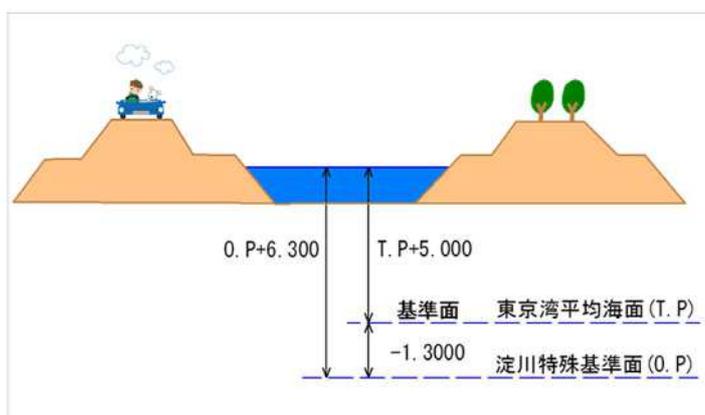
東京湾の平均海面はT. P (Tokyo Peil) といい現在の日本の標高基準になっているが大阪湾の場合はこれに対しO. P (Osaka Peil) という。東京と異なり平均海面ではなく最低潮面ということになっている。

O. Pの由来は明治初期の大阪港の建設に際して旧砲台内灯台下船溜所に量水標を設けてオランダ人デ・レーケが潮位の観測をした。そのとき1874年

(明治7)中の最低潮位が同量水標で9寸6分であったのでこの点をO. P零と定義し水準測量の基準面とした。その後、天保町元標などいくつかの基準標が各地につくられたが毛馬基標は淀川毛馬閘門が完成した1907年(明治40)に現位置から東北東20メートルの地点に設置された。

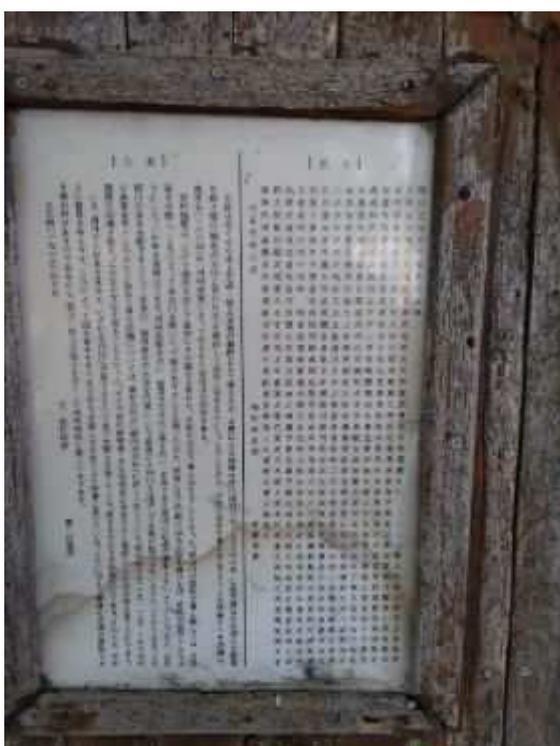
1935年(昭和10)には毛馬洗堰下流右岸岸壁の最下端の隅笠石にある釘打の頂点としO. P+4. 697メートル(15. 5尺)と定義された。

O. PとT. Pの関係も何度か変わったが1956年(昭和31)から近畿地方建設局内では1. 20メートルの換算値を採用していた。1966年(昭和41)にはO. P基準標を茨木市大字福井にある国土地理院の基準水準点「基21」に移しその標石下65. 4235メートルをO. Pと定めることになった。T. Pを基準とした高さをO. Pを基準とする高さに換算するときはT. Pに1. 30メートルを加える。(O. P海面はT. P海面よりも1. 30メートル低くなっている)



★分類困難

●大阪市 西区 贈正五位河村瑞賢功碑 水害





(碑文 背景)

河村義通（よしみち：後に法名瑞賢）は、元和4年（1618）、伊勢国度会郡に生まれ、13歳で江戸に出て車力になったが芽が出ず、一時は帰郷しかけた。しかし、その途次会った老人の忠告を受け入れ、再び江戸に戻る。普請役人にも

取り入り、人夫頭を経て次第に資産を蓄えた。明暦3年（1657）の江戸大火の際、木曾の山林を買占め巨額の利益を得た。

この利益を元に土建業を始めた瑞賢は、幕府や諸大名の普請を請け負うようになり、さらに奥羽御用米の江戸への回漕、東廻り海航路の開発と出羽御用米の回漕、西廻り海航路の開発など、海運発展の基礎をつくったことにより幕府の厚い信任を獲得した。

天和3年（1683）、幕府は、畿内の大和川治水の抜本策を講じるため、若年寄・稲葉正休を派遣し、その一行に瑞賢を随行させた。明くる貞享元年

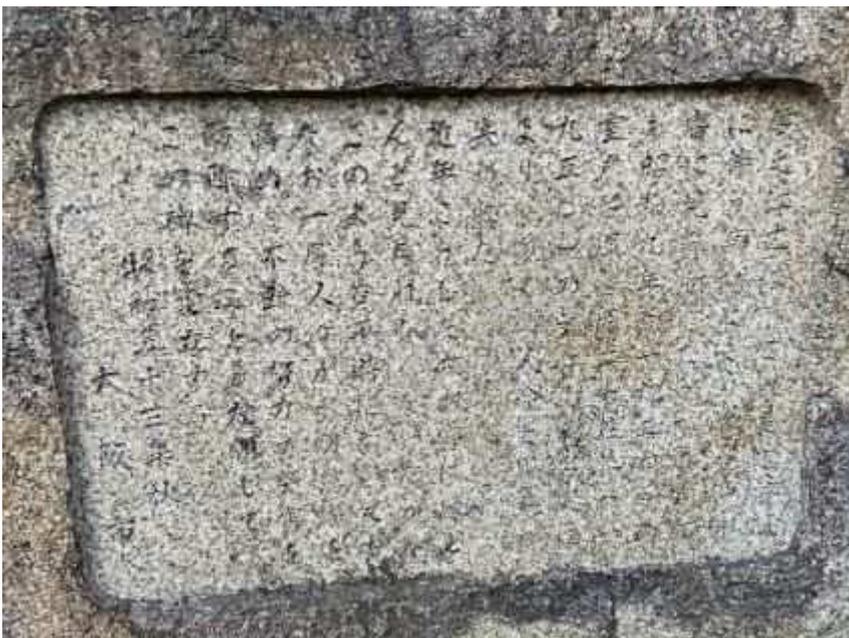
（1684）正月、全権を委任された瑞賢は、水患の原因は淀川河口の九条島が水流を妨げていることにあるとし、九条島を真二つに分ける開削工事に着手。同年2月からわずか20日間でやり遂げた。こうしてできた南北約3km、幅約1kmの新しい河道「新川」は、後に「安治川」と名付けられる。

瑞賢は、九条島開削は大和川の付替えよりも工事費が少なくて済み、治水効果が大きいとしたが、実際は新たな水運航路の確保による経済効果を的確に見通していた。安治川出現により、伝法口から中津川経由で大きく迂回して市内に入っていた船は大坂湾から直接堂島川や土佐堀川に入ることができ、距離の短縮と船の横づけが可能となり、両川の沿岸には各藩の蔵屋敷が立ち並ぶようになった。

瑞賢が迅速かつ大胆に実施した淀川治水事業の船運への貢献によって、その後、大坂は「天下の台所」として飛躍的な発展を遂げることになる。

★分類困難

●大阪市 住之江区 水防碑 水害





(碑文 要約)

住之江区は、これまで台風に伴う高潮により幾多の水害に見舞われたが、なかでも昭和9年(1934年)の室戸台風、昭和25年(1950年)のジェーン台風により、多くの人命と財産が失われた。

近年こうした大水害がほとんど見られなくなったが、なお一層、人々が水防意識を高め不断の努力で災害を防除することを念願してこの碑を建立する。

昭和53年秋 大阪市

★水防碑(大阪市)

●大阪市 住吉区 水防碑 水害





（碑文 要約）

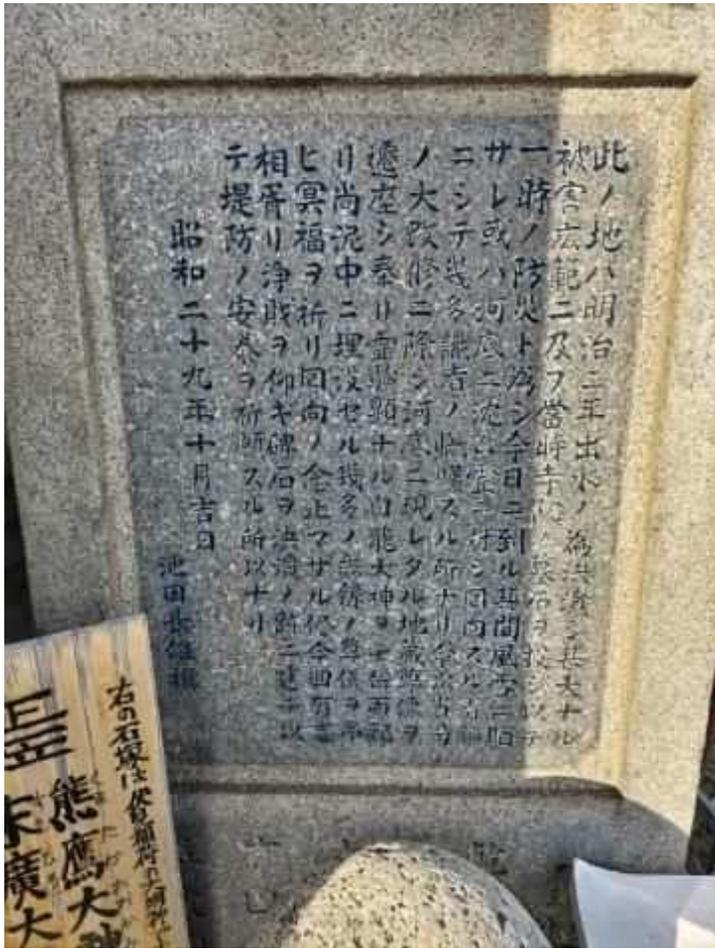
住吉区は、これまで幾多の水害に見舞われてきたが、なかでも明治元年（1868年）の大水害では当時の住吉郡遠里小野村の大和川堤防が決壊し多くの人命と財産が失われた。

近年こうした大水害がほとんど見られなくなったが、このような平時においてなお一層人々が水防意識を高め不断の努力で災害を防除することを念願してこの碑を建立する。

昭和 55 年秋 大阪市

★水防碑（大阪市）

●大阪市 住吉区 堤防安泰祈願の碑 水害





(碑文 要約)

明治の初めの堤防決壊の補修に、やむなく寺院の墓石などを用いたことがあり、その後放置の状態が続いたが、戦後の河川改修の際に、川底から地蔵尊像が現れた。墓石に混じって、地蔵尊の石像も、堤防補強に使われた。

その際、発掘された地蔵尊像を遷座し、白龍神像を合わせて祀ることで、今なお埋没する幾多の無縁仏を弔い、冥福を祈るようになった。

堤防決壊の跡に、この石碑を建て、堤防の安泰を祈るものである。

★大和川水害

●大阪市 此花区 水防碑 水害





(碑文 要約)

此花区は、これまで台風に伴う高潮により幾多の水害に見舞われたが、なかでも昭和 25 年（1950 年）のジェーン台風、同 36 年（1961 年）の第二室戸台風などにより多くの人命と財産が失われた。

近年こうした大水害がほとんど見られなくなったが、このような平時においてもなお一層人々が水防意識を高め、不断の努力で災害を防除することを念願してこの碑を建立する。

昭和 52 年秋 大阪市

★水防碑（大阪市）

●大阪市 福島区 水防碑 水害



(碑文 要約)

福島区は台風に伴う高潮によって水害に見舞われたが、なかでも昭和9年(1934年)の室戸台風、昭和25年(1950年)のジェーン台風、昭和36年(1961年)の第二室戸台風によって多くの人命と財産が失われた。

近年こうした大水害がほとんど見られなくなったが、このような平時においてもなお一層人々が水防意識を高めることを念願してこの碑を建立する。

昭和53年秋、大阪市

★水防碑 (大阪市)

●大阪市 西淀川区 水防碑 水害



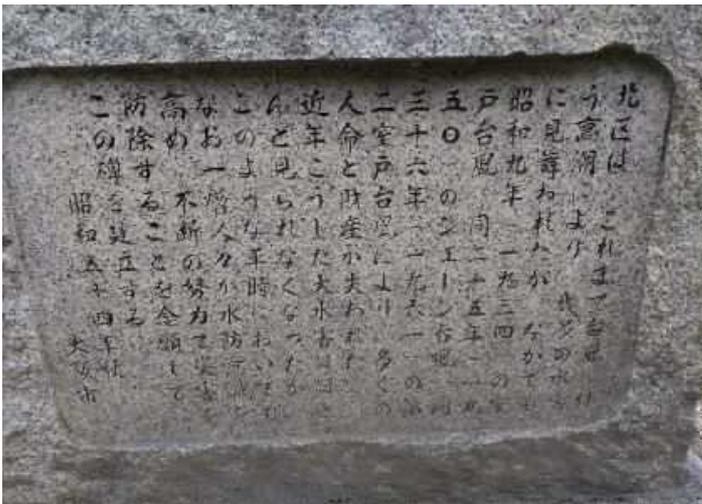
(碑文 要約)

西淀川区は、高潮などによりこれまで幾多の水害に見舞われてきた。なかでも昭和9年(1934)の室戸台風、昭和25年(1950)のジェーン台風などによる被害は大きく、多くの人命と財産が失われた。近年防潮堤工事が進みこうした大水害はほとんど見られなくなったが、なお一層人々が水防意識の高揚をはかり水害防除と河川愛護を念願してこの碑を建立する。

昭和51年秋、大阪市

★水防碑 (大阪市)

●大阪市 北区 水防碑 水害



(碑文 要約)

北区は、これまで台風に伴う高潮により幾多の水害に見舞われたが、なかでも昭和9年(1934)の室戸台風、同25年(1950)のジェーン台風、昭和36年(1961)の第二室戸台風により多くの人命と財産が失われた。

近年こうした大水害がほとんど見られなくなったが、このような平時においてもなお一層人々が水防意識を高め、不断の努力で災害を防除することを念願してこの碑を建立する。

昭和54年秋、大阪市

★水防碑 (大阪市)

●大阪市 此花区 重修桜堤碑（ちょうしゅうおうていひ） 津波



（碑文 要約 一部大阪市 HP から引用）

春日出新田は数次にわたって干拓されたが、当時、「桜堤」を築いて浸水を防いでいた。しかしその後いつのころからか、堤が田畑になってしまっていたのを、開拓のあとを引き継いだ清海安五郎が、あらためて津波などに備えて重ねて築堤した。明治 29 年に建立されたもの。

摂津の西成郡春日出新田に「桜堤」という堤があったが、これを潰し田に作り変えて久しかった。このたび再び堤を築くことになったのは、どのようなわけ

なのか。それは、清海安五郎翁の恒久的な防災計画によるもの。

新田は大阪府の西に位置し、広さは数十町、四貫島、恩貴嶋、嶋屋、南の四新田と隣接している。東西北の三方を中津川と淀川に囲まれ、南は嶋屋、南に新田の護岸堤防に接ししばしば河川の氾濫や海嘯に見舞われてきた。明治十八年（1885）の淀川大洪水ではかろうじて被災を免れたがその後、官により川沿いの堤防を修築することになった。五新田は合議して、金を拠出して工費に資することで、堤防をより分厚く堅固にすることにした。そこで翁は、中谷徳恭や村の古老たちに言った。今後は、河川の氾濫によって大きな災害に遭うことはないだろうが、もっとも虞れるものは海嘯である。

諸子らは慶応二年（1866）や明治四年（1871）の大災害を覚えているだろう。村の古文書を閲読したが、わが春日出村は以前には海嘯の被害に遭ったことがなかった。ところが近年たびたび罹災するのはどうしてなのか。これは決して災害に今昔の違いがあるからではなく、桜堤の有無に起因するものである。桜堤はわが村の南境界にあって、二つの新田（嶋屋・南）の護岸堤防と互いに向きあい、長く連なっていた。そのため、たとえ海嘯で堤が決壊しても、常にその潮勢を遮って止めることができた。ところが、天保十四年（1843）に代官築山氏が、わずかばかりの米を貪むさぼるために、堤を潰し田に開拓した。これを譬えていうならば、外門はあるが、内堀を撤去したようなものだ。もし一旦颶風が吹き荒れ潮汐が怒濤のように翻って湧き起こり二新田の護岸堤防の一カ所でも持ちこたえられなくなったら、たちまちすべてを洗い流して堤の内側に押し寄せてくるので、箕や簸で盛り土を作り溢れた水を遮って止めるものが無くてよいだろうか。その災いは他の四新田にも及ぶ。しからば、桜堤を築くことが利益を生みながら、害を除くことが急務ではなかろうか。しかるに近年はたびたび大風や干ばつが起り、店先に品物が並ばず、庶民は大いに困窮していたので、その分担金を拠出するのが困難であることを恐れた。然るにその費用を惜しむことを忍ばず、異を唱えて曰く、水で人が溺れる災害は、吾ひとりの力で衆に代わって弁じようと。乃ち憤然として明治十九年一月に工事着手し同年五月に竣工した。堤は長さ二一〇〇尺、高さ九尺、厚さ四八尺、実に寄付した田は二七五〇歩、費やした資金は一五〇〇円。そこで、村の衆が打ち躍り喜んでいうには、吾らが沈溺の災害から免れたのは、まことに清海翁の力によるものだ。その功績を不朽に伝えたいと考え、徳恭と諸事を相談した。そこで徳恭は図面と書状を持参して、余に碑文を書くように請うた。余は曰く、昔、歐陽永叔は偃虹堤記を書いて民を深く慮った。故に百歩の堤を以て大きな危険と不測の虞を防ぎ以て民に恵と利益をもたらした。宜しく記して、以て後人に伝えよ。以て余が之を覩るに、身分は太守職にあり、その力をもってすればどうしてこれを行うことが難しかっただろうか。しかもその堤の長さは一〇

〇〇尺を過ぎない。これに比べ 翁の事業は独力で、この大仕事を成し遂げたものである。もとよりその難易は、同日に語ることはできない。いわんや今日において功利を求めることを競うことが世俗となっている。自ら質素儉約し人々のために利益を興して害を除き、永遠無窮の方策を図る翁の如き人物はどこにいるだろうか。このことをどうして記さずにおけるだろうか。すなわち辞さず、書して曰く。後人たちよ、定期的に堤防の維持補修を行い先人の偉功が廃れることがないようにせよ。

中邨正美

謹書 大阪石工松原嘉右衛門

★分類困難

●大阪市 東淀川区 水防碑 水害





(碑文 要約)

東淀川区はこれまで幾多の水害に見舞われてきた

なかでも大正6年(1917)の神崎川下新庄樋(ここより北200m)の決壊は区内をはじめ淀川河口に至る全域に大きな災害をもたらした

近年河川改修が進みこうした大水害がほとんど見られなくなったが、なお一層水防意識の高揚をはかり、水害防除と河川愛護を念願してこの碑を建立する。

昭和51年秋 大阪市

★水防碑(大阪市)

●大阪市 生野区 プール学院 室戸台風 風水害





(碑文 背景 プール学院 HP から引用)

1934年9月21日に室戸台風に遭い、全壊した校舎の下敷きとなりながらも讃美歌(聖歌)「主よみもとに近づかん」を口ずさみ、互いを励まし合いながら逝去された17名の先輩方を偲んで、記念碑前にて礼拝をささげました。殉難直後に、英国へ帰国されていた普溜(プール)女学校初代校長トリストラム先生から送られた手記をご紹介します。

「なつかしい皆様 今朝の新聞で恐ろしい颱風が大阪地方に襲来し、私等の學校も大損害を受けた報道を耳に致しました。私の心は一杯で、自ら心は神に向い、慰めと祝福と御導きを賜う様祈らずにいられませんでした。17名の生徒は逝き、校長豊藤氏は負傷せられ、又校舎も相当損害を蒙ったことの外は未だ詳しいことは存じません。私は皆様に対し心から御同情申し上げ、又惨害のことを思うだに心は痛みます。皆様は愛する生徒。又同級生を失われ御心は悲歎と寂莫のうちに打ち沈まれていると存じます。又他に多くのお気の毒な人々があると存じます。それ等の人々にも同情致します。又校舎が損害をひどく受け、嘸かし御不自由と思えます。しかし皆様はそれにも係らずこの困難な事情のため最善の努力を捧げ、先生方は重き責任を果し又生徒たちは勉学に又周囲の人々の手助けをしておられると確信いたします。

私も姉も絶えず祈っております—豊藤校長の平癒全快のため、負傷を受けられた他の方々のために、愛児を失われし御両親のために、そして又この困難な焦燥の時に際会せられし学校の皆様方のために。

今朝、皆様のことを憶えて、詩編46篇を私共は共に読み、非常に力付けを得ました。どうぞその個所と、今一ヶ所ロマ書8章28節及び35節より49節をお読み下さい。力強き文真理の言葉であり、又今の私等の為に書かれたものです。

私が最も感謝していますことは、不幸にして亡くなった生徒は皆主イエスキリストを聞き、十字架に就き、我等のために死に、彼の故によりて神が赦し給う

ころに就て皆んな知っていたことです。その人等が神を信じて救われんことを希望致しています。

多分皆様のうち何人か『若し自分がその中の一人であったとしたならば、死の準備はできていたろうか』とお考えになった方がおありでしょう。死の準備が出来ていることは何たる幸福でしょう。平常無事な時のみならず危険の時ですら、私共はいつも幸福でいられます。

私は始終皆様のことを考えております。私の友は皆、皆様が私を大阪棧橋に見送りに来て下さった時の写真を好んで見ます。私も遠からず日本へ帰りたと思います。姉の病気のため、思うように早く帰れないので残念です。

真実にして親愛なる友 カザリン トリストラム」

すべて自然災害、また新型コロナウイルスによって地上での生涯を終えられた方の魂の平安を祈りつつ、トリストラム先生が送られた聖書のみ言葉を胸に、明日の希望の光を灯し続ける学院としてこれからも邁進いたします。

★室戸台風（学校内）

●大阪市 北区 堀川戎神社 福興戎像 阪神淡路大震災



(碑文 背景)

平成7年1月17日の阪神淡路大震災で破損した表門石造鳥居(昭和2年制作)の柱に彫られ、平成10年に奉納、さらに、平成12年には、「福」と「興」から名付けたもの。被災した鳥居から蘇った由来により、防災の伝承がされている。

★阪神淡路大震災

●高槻市 如是小学校 室戸台風 風水害





(碑文 背景)

室戸颱風殉難之碑

室戸台風で校舎が倒壊し、児童30名と教員2名が死亡するなどの大きな犠牲となった。

★室戸台風 (学校内)

●高槻市 芥川小学校 室戸台風 風水害





(碑文 背景)

風害記念

室戸台風で校舎の一部損壊によって4年生5名が痛ましい犠牲となった。

★室戸台風 (学校内)

●池田市 水害記念碑 水害



(碑文 背景)

明治29年8月30日からの大雨による猪名川洪水により東能勢村で山崩れ、建物流出、崩潰、26棟、同破損・浸水40棟、耕地流亡約320ヶ所、崩れヶ

所田畑宅地約1500ヶ所・山林22ヶ所・道路毀損約50間、橋梁流出・毀損38ヶ所、堰流失50ヶ所。

明治31年9月、旧能勢郡7か村長及び細河・止々呂美村長は、水害の惨禍を思い、復興を記念し、細川村の兵庫県境に近い猪名川辺りに「水害記念碑」を建設。

碑文には、この水害の経過にふれ、「近年、諸山の濫伐大に行い、人其の禍を蒙るを恐れ」ていたと記載されている。

★分類困難

●東大阪市 弥刀小学校 室戸台風 風水害





(碑文 要約)

学校安全の碑

本校がとわに安全平和なる学園であれかしと祈ることせつなり。
ひろく父兄、校区有志ならびに遺族各位の篤志を受け、これを建つ。

昭和42年3月

東大阪市弥刀小学校 PTA

昭和9年9月21日早朝第一室戸台風が阪神地方に來襲木造二階校舎を倒壊せり。学童34名、母1名の尊い生命は校舎とともに散りぬ。

昭和41年9月21日 布施市立弥刀小学校 PTA は右犠牲者35名、校内事故物故者4名の追悼慰霊第三十三年祭をいとなむ。

なお、校舎内においては、室戸台風での事故の様子を、追悼慰霊第三十三年祭の昭和42年に6年生が絵画にした学校災害追悼慰霊記念画が掲示されている。

●東大阪市 友井墓地 室戸台風 風水害





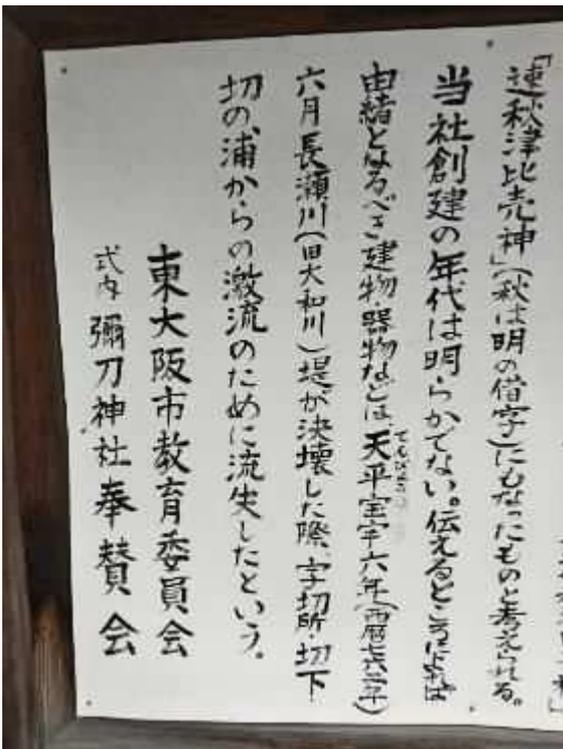
(碑文 背景)

学童之霊

この碑は室戸台風で犠牲になった友井地区の児童の供養の為、友井地区の方々によって建てられたもので、十一名の名が刻まれている。

★室戸台風（その他）

●東大阪市 彌刀神社 水害





↑現 長瀬川

(碑文 背景)

由緒となるべき建物業物などは、天平宝字6年(西暦762年)6月に長瀬川(旧大和川)が決壊した際、字切所、切下、切の浦からの激流により流失した。

★大和川水害

●大阪市 住吉区 住吉小学校 室戸台風 風水害



(碑文 背景)

1934年9月21日に近畿地方を襲った第一次室戸台風は、当時の木造校舎を倒壊させ、18名の子どもたちの尊い命を奪った。住吉小学校ではこの悲劇を教訓に、自然災害から身を守る防災教育を進めている。

犠牲者・負傷者の方々の慰霊と、この悲劇を忘れぬように地域・児童からデザイン公募し、創立100周年にあたる2008年9月にこの室戸台風慰霊碑を住吉小学校内に建立した。

また、被災慰霊祭80周年記念誌も発行されている。

★室戸台風（学校内）

●大阪市 生野区 北鶴橋小学校 室戸台風 風水害



(碑文 背景)

昭和9年9月21日風水害記念

室戸台風被災 男子46人 女子21人 計67人

男子教員1人 母親2人 店員1人 合計71人 犠牲

★室戸台風 (学校内)

●守口市 守口小学校 室戸台風 風水害



(碑文 背景)

慰霊之碑

校舎の一部が倒れ、児童 11 名が犠牲、給仕 1 名が殉職

★室戸台風 (学校内)

●門真市 大和田小学校 室戸台風 風水害





(碑文 背景)

校舎倒壊により 16 名の児童が犠牲

(碑文 要約)

風災學童之碑

昭和九年九月二十一日未曾有ノ颱風ニ遭遇校舎倒壊憐シ學童十六悲シクモ之レ
ガ尊キ犠牲トナル爾來校村拳ゲテ哀悼清涙ニ暇シ慈ニ隅々本村青年團達專ニカ
ヲ尽シ全村ニ資ト賛ヲ求メ慰靈ノ為建碑シ爾シテ故學童御魂ヲ永ニ弔フ嗚呼

昭和十年十月二十一日 建立

★室戸台風 (学校内)

●大阪市 生野区 生起地藏尊 室戸台風 風水害



(碑文 要約)

昭和 9 年室戸台風の折堺三宝浜に出現の地藏尊有志相図り町内に勧請町の平和と安全親と子の恵みを垂れ賜ひ茲に約半世紀今度御堂再建に当たり由来を顧み誌す。

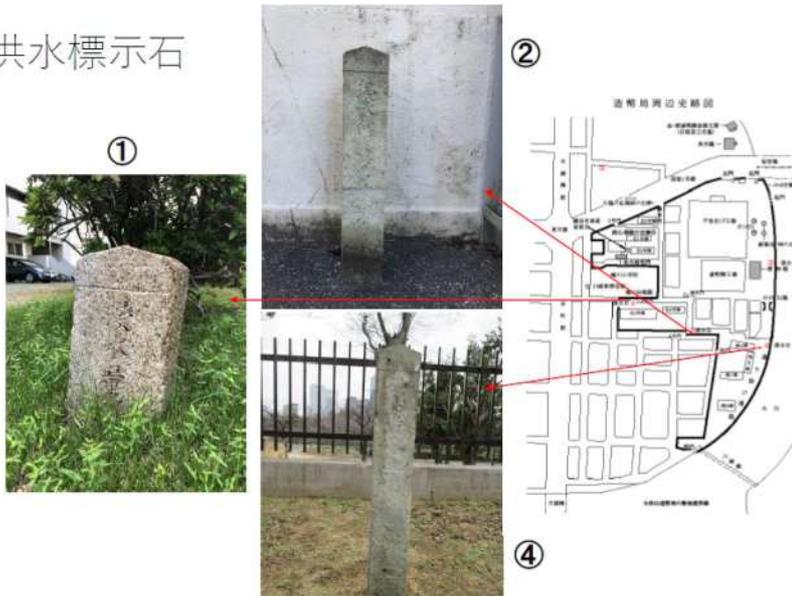
昭和 55 年 8 月 10 日 生起地藏講

★室戸台風 (その他)

●大阪市 北区 造幣局 洪水標示石 水害



洪水標示石



↑ 敷地内一般立入不可のため、守衛室配備のパンフ等から引用



↑同上

(碑文 背景)

明治18年の淀川左岸決壊時における浸水深を4箇所の標示石に明示

★淀川水害（明治18年）

●大阪府 豊能町 瀧本訓導の碑 水害



よりよいくらしをめざして

洪水が起きない余野川に

野間口の入り口に大きな碑がたっているのを見つけました。

碑には、「瀧本訓導殉職之地」と書いてありました。

そこで、おじいさんに話を聞いてみました。

写真の碑は、瀧本先生の碑です。

瀧本先生は、今から80年ほど前、今の東能勢小学校の先生をしていました。1938年（昭和13年）7月5日、大雨のとき、子どもを助けよう

として、水にのまれて亡くられたのです。その日、瀧本先生をはじめ9人が亡くなったそうです。

今の余野川しか知らないみなさんは、この豊能町で大水が起こり、たくさんのお家が流されたり、田畑が土砂にうもれ、何人もの人が亡くなったことなど、とても信じられないことかもしれません。でも、余野川は、昔から今のように立派な堤防があったわけではありません。昔は、川幅もせまく、曲がりくねった、たびたび洪水を起こす川だったのです。



○余野川

↑豊能町立小学校図書（豊能町から情報提供いただいた）

(碑文 背景 豊能町 HP から引用)

瀧本訓導の碑

1938年7月5日の大水害の折り、野間口では山地が崩壊して、山津波が押し寄せ、岩石・土砂・立木が流出し、道路・家屋を押し流した。東能勢村だけでも9人の死亡者を出す、同村はじまって以来の大惨事となった。その9人の中に前年度箕面尋常高等小学校より東能勢尋常高等小学校へ主席訓導として赴任されていた瀧本撰治(当時33歳)が含まれていた。瀧本訓導は児童を家庭に送り、その帰路、担任児童の一家の危難を見、救助にむかい殉職された。「大阪毎日新聞」の1938年7月7日には『あゝ殉職・瀧本先生山津波に敢然・教え子離さず』の見出しで同訓導の殉職を報じている。同年7月18日に学校葬が行われた。

本石碑の経緯については、豊能町立小学校の教科書にも余野川の洪水の歴史などとして記載されている。

★分類困難

●豊中市 熊野田小学校 室戸台風 風水害



(碑文 要約)

大風水害記念碑

昭和九年九月廿一日午前八時猛襲セル大風水害に依り講堂校舎倒壊稲久保校長ノ殉職並びに田中義美野村照子田中照子小寺幸男笹部義春生田ヨシエ（於豊南校）ノ犠牲者ヲ始め三十有餘名の重軽症者を出セリ之ガ悲惨事ヲ永久に壞想記念センガ為茲に記念ガ碑ヲ建ツ

村長 石丸義雄 撰 助役 田中嘉治 書

昭和十年九月廿一日建立熊野田村

※石碑画像は公開不可のために不掲載

★室戸台風（学校内）

●大阪市 平野区 白鷺公園 阪神淡路大震災



(碑文 要約)

平成七年一月十七日午前五時四十六分

阪神震災鎮魂植樹

犠牲者 5504 餘人のご冥福を祈る

★阪神淡路大震災

●大阪市 西淀川区 大野百島住吉神社 阪神淡路大震災



(碑文 要約)

阪神淡路大震災復興記念

★阪神淡路大震災

●大阪市 西淀川区 大野百島住吉神社 ジェーン台風 風水害





(碑文 要約)

昭和貳拾五年九月參日チェーン颱風の災禍に依りて、社殿は痛ましき迄に損傷せ今や講和條約の調印を終了平和日本の再出発の時期至る氏子一同大いに奮起し敬神の誠を捧げ茲に神社の復興を図る

昭和貳十六年十月

★分類困難

●大阪市 西淀川区 田蓼神社 阪神淡路大震災





(碑文 要約)

阪神淡路大震災で標柱が破損したが、金属で補強し境内に設置した。

★阪神淡路大震災

●大阪市 福島区 福島天満宮 阪神淡路大震災



(碑文 要約)

阪神淡路大震災で大正 10 年建造の石造大鳥居が被災したが、完成奉建した。

★阪神淡路大震災

●大阪市 西淀川区 左門殿川 水害



(碑文 要約)

左門殿川過去最高水位 2018.9.4 OP+4.61m

★分類困難

●寝屋川市 千種庄右衛門彰徳之碑 水害



(碑文 要約 寝屋川市 HP から引用)

国松町は、近世には讚良郡(ささらこおり)国松村とよばれていました。この地の悪水は、寝屋川と南前川の合流地点付近で寝屋川に流れていました。しかし、寝屋川の川床が上流からの土砂でだんだん高くなるに従って悪水の排水が悪くなり、大雨があると領内に逆流して田んぼや畑が冠水してしまうという状態でした。

かつては「国松のやきどうふ」という言葉があり、日照りが続くと田は焼け、雨が続けば悪水が停滞し水浸しになっていたといわれます。

江戸時代中ごろ、国松村は幕府の直轄地で近江信楽(おうみしがらき)代官の支配下にありました。当時役人であった千種庄右衛門は、国松の人々の苦しみをみかねて享保9年(1724年)寝屋川の川床をくぐる伏越樋を設けて、友呂岐悪水路(ともろぎあくすいろ)に水を落とすことに成功しました。

しかし、用水・悪水などの関係の複雑さから隣村の三井村との紛争が絶えませんでした。千種庄右衛門は、その責任をとって自害したと伝えられています。

昭和28年(1953年)には行誓寺本堂前に「千種庄右衛門大人(うし)之碑」、昭和40年(1965年)には伏越樋のある堤上に「千種庄右衛門彰徳之碑」が建立されました。千種庄右衛門については、行誓寺には「智久瑳昌右衛門(ちぐさしようえもん)霊」と記した位牌と江州信楽の役人と云う伝承があるのみでしたが、平池の旧家の古文書により享保9年にこの悪水の工事があったことが明らかになりました。

★分類困難

●大東市・寝屋川市 寝屋川治水緑地竣工 水害



(碑文 背景)

寝屋川治水緑地は、大東市深野北と、寝屋川市河北にまたがる、50.3haの地域に建設されている。普段は運動広場や公園として利用され、大雨の時には河川からの洪水を計画的に一時貯留することによって、下流河川の水位低下と流量負担軽減を図り、洪水による被害を防止する施設である。

★寝屋川水害

●寝屋川市 寝屋川改修記念碑 水害



(碑文 背景 寝屋川市 HP から引用)

昭和 45 年の建立で、知事が揮ごうし、建立世話人 4 人、発起人 18 人の名前が刻まれている。水路としての寝屋川は、北河内と大阪市内を結ぶ重要なルートで、かつては農作物を運ぶ剣先舟でにぎわった。その一方、しばしば洪水を起こす暴れ川でもあった。

碑は第 2 次治水計画による改修を記念して建立された。しかし 2 年後、九州から関東地方にまで被害を及ぼした「昭和 47 年 7 月豪雨」の折に、寝屋川流域は大東市などで大規模な水害が起きた。人間の歴史は水との戦いの歴史だといわれている。寝屋川治水計画は平成元年、流域の基本高水流量を大幅に見直す第 3 次治水計画を策定、豪雨に備えている。

★寝屋川水害

●大東市 住道地区河川改修完成記念 水害





(碑文 要約)

住道地区河川改修完成記念

昭和40年代に着手した大東市住道地区における河川改修の完成を記念しここに建立する。

本事業に協力いただいた地元の方に感謝をすると共に尽力した多くの関係者、技術者の労をねぎらい大東市域の安寧を祈念する。

平成30年3月

大東市

大阪府寝屋川水系改修工営所

元大阪府副知事 吉田喜七郎 書

★寝屋川水害

●大阪市 西淀川区 外島保養院 中野婦長殉職碑 室戸台風
(石碑は 岡山県邑久光明園内)



(碑文 背景 国立療養所邑久光明園 HP から引用 遠隔地のため画像とも)
この碑は、1934年の室戸台風で当園の前身である外島保養院が壊滅(入所者173名、職員・家族14名死亡)した際、我が身を犠牲にしてまでも入所者の救命に全力を尽くし殉職された「中野鹿尾(なかのしかお)」看護婦長を記念して1942年9月に建てられたものです。

中野婦長は、当日いち早く重病棟に出勤し、風雨におびえる病人たちを励まし、避難と決まるや、すぐさま身動きもできない病人を背負い、また、手を引いて堤防へと急ぎ、それは三度にもおよび津波の迫る中、なお、その水の中に入って行き、残されている病人を背負い、視覚障がい者の手を引いて堤防へ上がろうとした際、高波に飲み込まれ二日後に遺体で発見されました。中野婦長は1934年4月に就職したばかりの看護婦であったが、遺体発見後、災害のあった9月21日付で婦長昇格の任命を受け、殉職死亡退職となりました。

1942年9月

★室戸台風(その他)

●吹田市 豊津第一小学校 吉岡藤子訓導顕彰碑等 室戸台風 風水害
(顕彰碑所在地は、山口県宇部市立厚南小学校内)



↑ 供出されたため現存しない

(碑文 背景 山口県立山口博物館 HP から引用 遠隔地のため画像とも)

大阪府の豊津尋常高等小学校訓導(教諭)だった吉岡藤子さん(厚狭郡厚南村(現宇部市)出身)は、昭和9(1934)年9月の室戸台風の際、倒壊する校舎から児童を守り殉職しました。山口県教育会はこれを顕彰し、昭和12(1937)年に博物館前庭に銅像を建立しました(昭和18年供出)

昭和十年代に映画や本になり先生の鑑として全国に知られた。昭和九年の九月、観測史最強となった室戸台風は四国を通過後、大阪に上陸した。あまりにも強い風のため校舎が倒れ、午前中の授業をしていた子どもたちや先生が下敷きになってしまった。当時二十七歳であった吉岡先生は校舎が倒れた時、とっさに近くの児童を自分の着物の下に入れてかばった。台風が過ぎて助けの手が伸びた時には先生はすでに息絶えていたが、先生の下から六人の児童が助かって出てきた。

先生は厚南の新開作の土手町で生まれた。小さい時に父親を亡くしたため昼は働き夜は夜間学校へ通い、先生になる資格を取った。伝記を見ると大阪で先生になるまでは筆舌に尽くしがたい苦勞を重ねている。

子どもたちのために殉職された先生の生き様は昭和十二年に大反響を呼び、演劇、映画、ラジオにも取り上げられた。そして殉職当時の様子を表した銅像が山口県博物館の前に建てられたが、戦時中に銅像は供出されてしまった。遺品などは同博物館に今も大切に保管されている。



↑宇部市立厚南小学校内

(碑文 要約 画像は遠隔地のため吹田市立豊津第一小学校資料から引用)

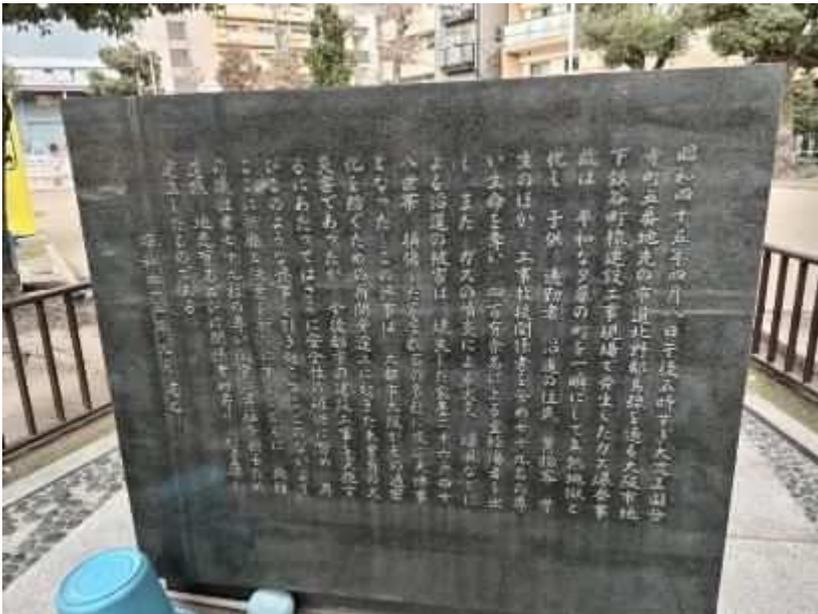
吉岡藤子先生をしのんで

厚南小学校を卒業した吉岡藤子先生は、大阪府吹田市豊津小学校の先生になりました。1934年秋、室戸台風で校舎が崩壊したとき、眼前にいた六名の教え子をだきしめ、先生は圧死しましたが、教え子の命を救ったのです。

★室戸台風(学校内)

番外（極めて教訓性が高いもの）

●大阪市 北区 国分寺公園 天六地下鉄工事現場ガス爆発事故 火災





(碑文 背景 なにわの地下鉄から引用)

1970 (昭和 45) 年 4 月 8 日 17 時 45 分、大阪府大阪市大淀区 (現 北区) 国分寺付近の谷町線建設現場でガス爆発事故が発生した。天六ガス爆発事故と呼ばれ、死者 79 名、負傷者 420 名を出す大惨事となった。

建設中の地下構内のガス管が、継手部分を含め約 200m にわたって宙吊りとなっていた。建設工事や交通荷重の影響で継手部分が劣化していった。結果、17 時 15 分に継手部分が抜け落ちて都市ガスが噴出した。この区間は開削工法で建設されており、ガス噴出時は覆工板が設置されていた。覆工板が蓋の役目をして地下構内は都市ガスが充満、隙間から地上にも漏れ出た。たまたま通りかかった大阪ガスのパトロールカーがガス漏れを検知して通報、事故処理車が到着する。この事故処理車が現場で移動しようとエンジンを始動した際にセルモーターの火花が引火、17 時 39 分に発火し、地上に噴出していたガスにも着火した。自動車燃えたことにより、野次馬が多く集まりだして付近は多くの人が集まっていた。そして 17 時 45 分、何らかの原因で地下に充満していたガスに着火、高さ約 10m の火柱とともに大爆発が発生した。この大爆発により、付近に敷き詰められていた覆工板 (重さ約 380kg) 約 1,500 枚と、その上に乗っていた人も吹き飛ばされた。爆発の火柱は、道路両側の家屋に燃え移った。そのため、すぐにガスを止めることができず、21 時 20 分頃にガス止め作業に着

手、後に消防による消火活動が行われ、21時40分頃に鎮火した。
現場付近の国分寺公園には、この事故の慰霊碑が設置されている。

当時、事故現場の調査にあたった兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科の室崎益輝教授は、大きな問題点が4つあると指摘している。

- ①地下のどこにガス管や水道管が入っているのか、図面もない状態で突貫工事をしたためにガス管を損傷してしまったこと。
- ②先を急ぐあまり、手掘りで注意深く進めるどころか重機を入れて強引に掘削する工法を取ったこと。
- ③ガスが漏れてからの危機管理を怠ったこと。現場に近づく市民を規制せず、ガスが漏れているかもしれないところにエンジンをふかした車を入れてしまったこと。
- ④この事故に先立つ4月4日と6日にも同じ場所でガス漏れがあったのに、応急処理だけで済ませ、消防や警察に連絡していなかったこと。

人の命や安全よりも万博関連工事を優先させてしまった結果の事故で、この天六ガス爆発事故は「都市災害」という言葉が日本で使われるきっかけになったと言われている。